

福島原発事故後の親子の生活と健康 に関する調査報告書（2020年）

このたびは、「福島子ども健康プロジェクト」が2013年1月から毎年実施しております「福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査」にご協力いただき、誠にありがとうございました。おかげ様で、第8回調査の報告書が完成しましたのでお送りいたします。

この報告書は、全体的な傾向を示すために主要な項目を中心に調査結果を要約したものです。さらに詳細な分析は、下記のホームページに掲載される予定の論文などをご参照ください。

今回、コロナウィルス禍で、目に見えない放射能に遭遇し、外遊びができず苦しんでいた9年前の原発事故後の事を思い出すと、複数のお母さんの声がありました。こうした埋もれがちな声を拾い上げ、原発事故後の経験を次世代に伝えていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2020年4月8日

【お問い合わせ先】

福島子ども健康プロジェクト

〒470-0393 愛知県豊田市貝津町床立101 中京大学 成元哲研究室

電話&FAX：0565-46-6516（直通）

e-mail：sungwonc@sass.chukyo-u.ac.jp

ホームページ：https://fukushima-child-health.jimdo.com/



* 本研究は科学研究費助成事業（19H00614）、トヨタ財団研究助成（D18-R-0325）の研究
成果です。

★ご覧いただくにあたっての注意点

- ① 調査票は、現在も調査対象者からご送付いただいております。今回の報告書は、2020年3月23日までに到着した調査票を対象としました。そのため、この報告書の結果は702票を集計したものです。
- ② 各グラフの数値は、特にことわりがない限り、回答者全体（702名）に対する割合です。ただし、小数点第2位以下は四捨五入しています。また、非常に小さい数値は表示していませんので、合計は必ずしも100%にはなりません。
- ③ 本調査データを引用される場合は、事前に「福島子ども健康プロジェクト」までご連絡ください。

1 調査の回答状況

1.1 第8回調査は702名の子ども之母親（保護者）が回答

表 1-1 地区ごとの回答状況：

| 地区 | 第1回調査(2013年) | | | 第2回調査(2014年) | | | 第3回調査(2015年) | | | 第4回調査(2016年) | | |
|------|--------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| | A | B | C | A | B | C | A | B | C | A | B | C |
| 福島市 | 2137 | 883 | 41.3 | 883 | 526 | 59.5 | 525 | 379 | 72.1 | 410 | 328 | 79.8 |
| 桑折町 | 70 | 34 | 48.6 | 34 | 22 | 64.7 | 22 | 19 | 86.4 | 20 | 14 | 65.0 |
| 国見町 | 63 | 27 | 42.9 | 27 | 13 | 48.1 | 13 | 11 | 84.6 | 12 | 11 | 91.7 |
| 伊達市 | 404 | 175 | 43.3 | 175 | 118 | 67.4 | 118 | 89 | 74.6 | 94 | 75 | 78.7 |
| 郡山市 | 2644 | 1076 | 40.7 | 1076 | 629 | 58.5 | 629 | 476 | 75.7 | 514 | 390 | 75.7 |
| 二本松市 | 397 | 176 | 44.3 | 176 | 111 | 63.1 | 111 | 76 | 68.5 | 80 | 72 | 88.8 |
| 大玉村 | 81 | 44 | 54.3 | 44 | 27 | 61.4 | 27 | 21 | 77.8 | 22 | 20 | 90.9 |
| 本宮市 | 290 | 125 | 43.1 | 125 | 82 | 65.6 | 82 | 60 | 72.0 | 62 | 48 | 77.4 |
| 三春町 | 105 | 34 | 32.4 | 34 | 15 | 44.1 | 15 | 10 | 66.7 | 12 | 10 | 83.3 |
| その他* | | 54 | | 54 | 63 | | 63 | 68 | | 71 | 53 | 73.2 |
| 計 | 6191 | 2611 | 42.2 | 2628 | 1584 | 60.3 | 1605 | 1205 | 75.2 | 1297 | 1015 | 78.3 |
| | | 2628 | 42.4 | | 1606 | 61.1 | | 1209 | 75.3 | | 1021 | 78.7 |
| 地区 | 第5回調査(2017年) | | | 第6回調査(2018年) | | | 第7回調査(2019年) | | | 第8回調査(2020年) | | |
| | A | B | C | A | B | C | A | B | C | A | B | C |
| 福島市 | 327 | 285 | 87.2 | 325 | 270 | 83.1 | 306 | 260 | 85.0 | 293 | 227 | 77.5 |
| 桑折町 | 14 | 12 | 85.7 | 14 | 12 | 85.7 | 14 | 10 | 71.4 | 13 | 10 | 76.9 |
| 国見町 | 11 | 9 | 81.8 | 9 | 7 | 77.8 | 8 | 7 | 87.5 | 8 | 7 | 87.5 |
| 伊達市 | 79 | 66 | 83.5 | 76 | 59 | 77.6 | 67 | 55 | 82.1 | 65 | 51 | 78.5 |
| 郡山市 | 390 | 345 | 88.5 | 385 | 303 | 78.7 | 352 | 313 | 88.9 | 335 | 274 | 81.8 |
| 二本松市 | 72 | 61 | 84.7 | 73 | 60 | 82.2 | 66 | 55 | 83.3 | 64 | 47 | 73.4 |
| 大玉村 | 20 | 15 | 75.0 | 20 | 16 | 80.0 | 17 | 16 | 94.1 | 17 | 14 | 82.4 |
| 本宮市 | 48 | 45 | 93.8 | 47 | 38 | 80.9 | 45 | 37 | 82.2 | 40 | 28 | 70.0 |
| 三春町 | 10 | 8 | 80.0 | 10 | 7 | 70.0 | 8 | 8 | 100.0 | 8 | 5 | 62.5 |
| その他* | 55 | 49 | 89.1 | 60 | 47 | 78.3 | 53 | 44 | 83.0 | 50 | 39 | 78.0 |
| 計 | 1026 | 895 | 87.2 | 1019 | 819 | 80.4 | 936 | 805 | 86.0 | 893 | 702 | 78.6 |
| | | 912 | 88.9 | | 832 | 81.6 | | 814 | 87.0 | | | |

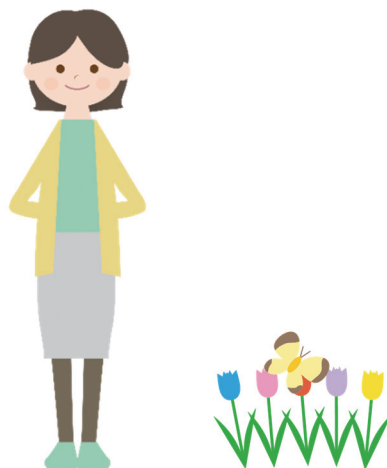
*A：調査対象者数、B：回答数、C：回答率（%）

*B,Cの計の上段は各報告書作成時点の数、下段は2020年3月23日時点での数です。

*「その他」は調査対象地域の9市町村の住民基本台帳に2012年10月から12月までに記載されていた方で、それぞれの調査時点で「9市町村外」に転居された方の人数です。

この調査は、福島県中通り9市町村（福島市、桑折町、国見町、伊達市、郡山市、二本松市、大玉村、本宮市、三春町）の2008年度出生児6191名（生年月日が2008年4月2日から2009年4月1日までのお子さん）のうち、2018年の第6回調査と2019年の第7回調査にご回答いただいた方（893名）を主な対象としています。今回の第8回調査は、2020年3月23日の時点で、702名の子ども之母親（保護者）からご回答いただきました。

- *第2回調査（2014年）と第3回調査（2015年）において、「その他」の回答数が対象者数を上回っています。これは、それぞれ前回の調査票に記入された住所に送付しましたが、転居などで「9市町村外」に移動した場合、「その他」に分類されるためです。
- *第4回調査の対象者数が第3回調査の回答数を上回っています。これは、第4回調査は2015年11月末時点での第3回調査回答者（1207名）に加えて、第1回調査協力者で第3回調査未回答者の中から再協力者（90名）を加えたためです。
- *第5回調査は、第4回調査の回答者（1021名）に加えて、第4回調査には回答していないが、住所変更などのお便りをくださった方（5名）を含めて1026名を対象としています。
- *第6回調査は、第4回調査の回答者（1021名）のうち、転居等で住所不明になり第5回調査票を届けられなかった方（2名）を除いた1019名を対象としています。
- *第7回調査は、第5回調査の回答者（912名）に加えて、第5回調査には回答していないが、第6回調査に回答してくださった方（24名）を含めて936名を対象としています。
- *第8回調査は、第6回調査の回答者（832名）に加えて、第6回調査には回答していないが、第7回調査に回答してくださった方（61名）を含めて893名を対象としています。



2 子どもの生活

2.1 「お子さんと遊ぶ機会」「お子さんと一緒に買い物に行く機会」が年々減少

子どもの学年が進むにつれ、「お子さんと遊ぶ機会」「お子さんと一緒に買い物に行く機会」が減少しています。子どもの成長とともに、交友関係や勉強・趣味活動など家庭外での生活が広がり、親子で一緒に行動する機会が少なくなっています。ただ、食事に関しては、学年が上がっても8割以上が毎日親子で食卓を囲んでいることがわかります。

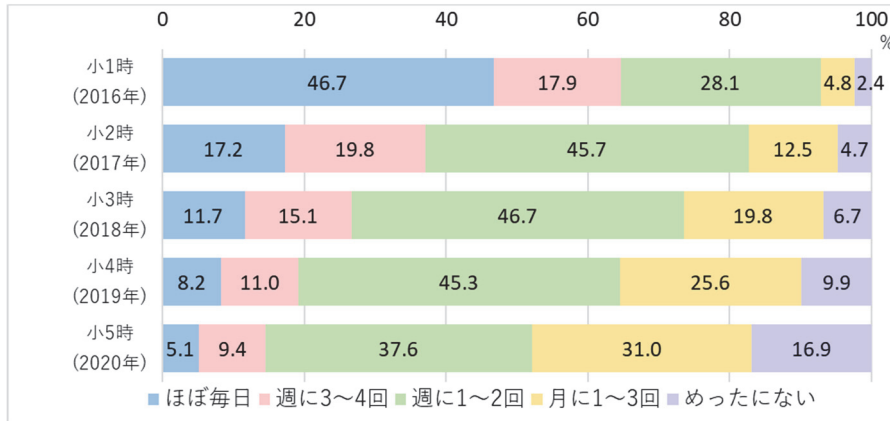


図 2-1-1 お子さんと遊ぶ機会

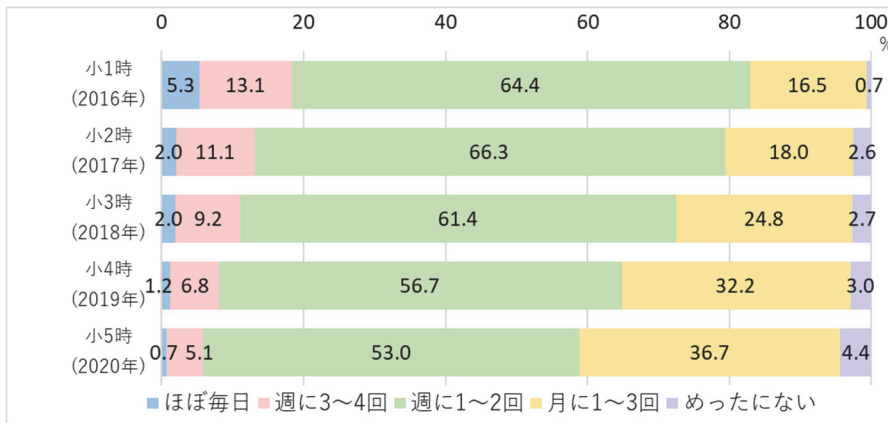


図 2-1-2 お子さんと一緒に買い物に行く機会

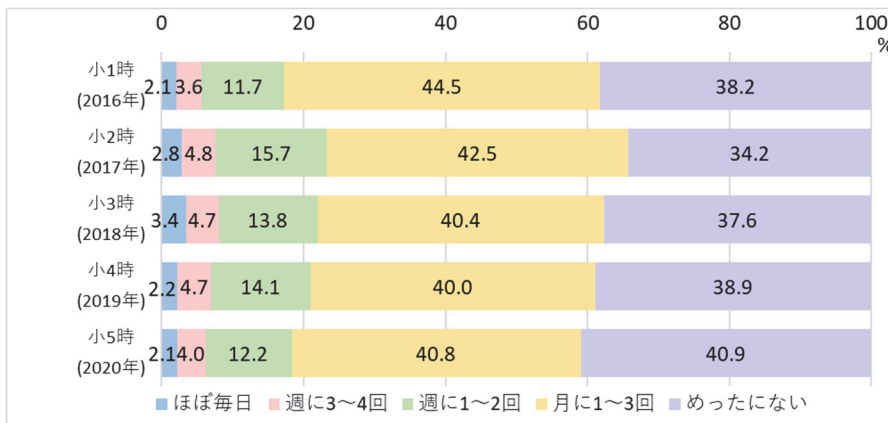


図 2-1-3 お子さんと同じくらいの年齢の子どもを持つ友人や親戚と訪問し合う頻度

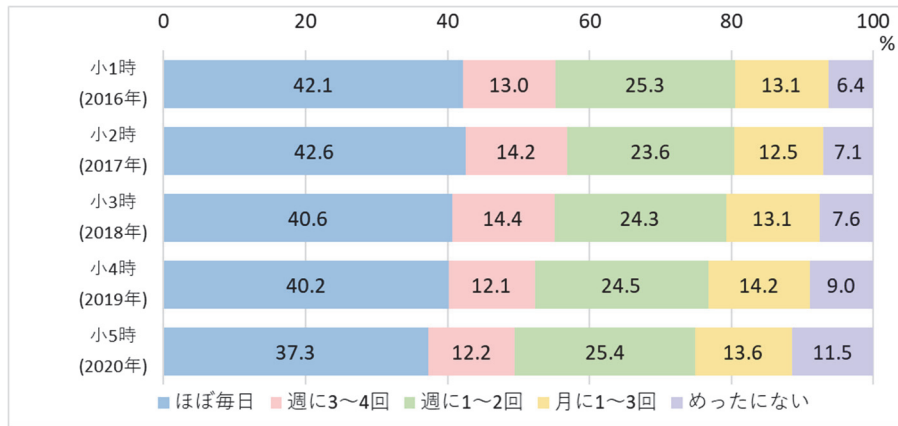


図 2-1-4 お父さん（または父親の代わりにになる人）の育児に参加する頻度

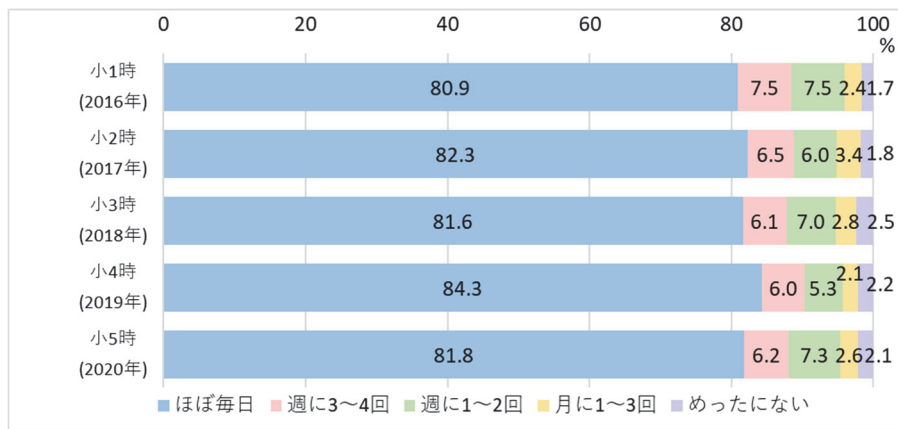


図 2-1-5 お子さんが両親（または母親、父親の代わりにになる人）と一緒に食卓を囲んで食べる機会



2.2 子どもの「外遊び」時間が減少

「外遊び」を30分以上する子どもの割合は、小学3年生以降減り続けています。今回の調査では、「まったく遊ばない」が7.3%と1割近くにまで達しています。小学校5年生となり、遊び方に変化が生じたこと、習い事等に費やす時間が増えたことなどが原因と考えられます。

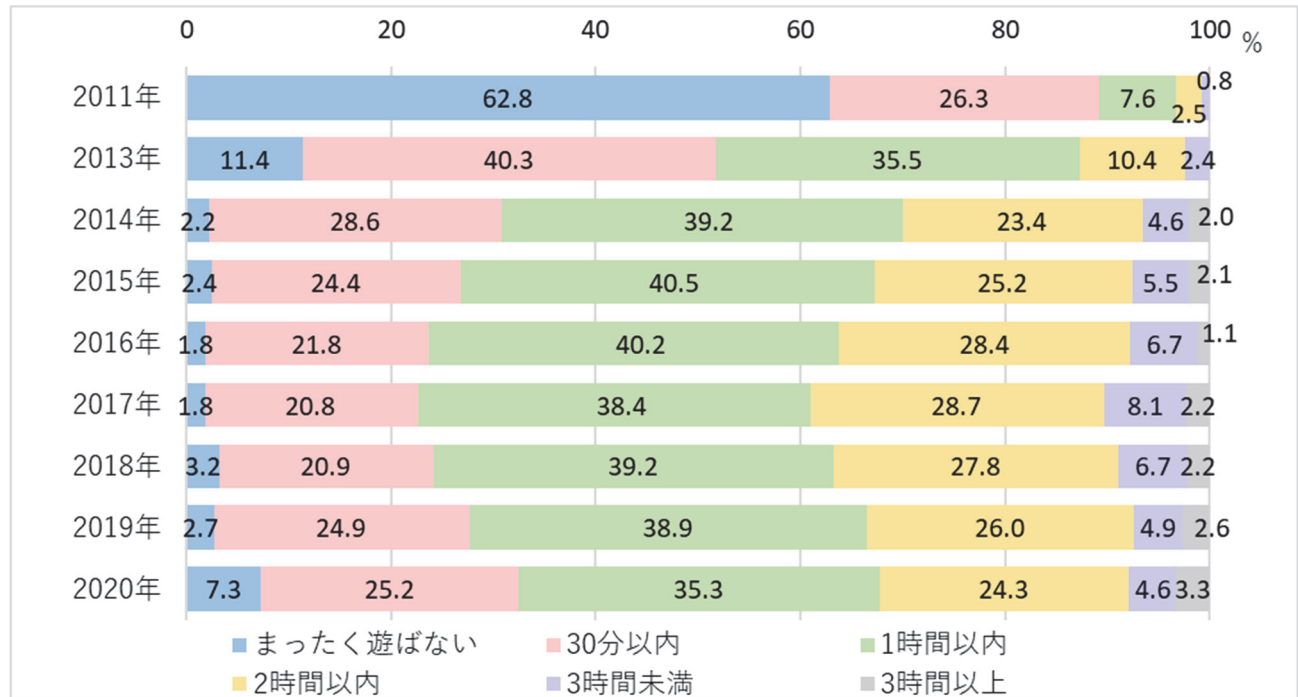


図 2-2 子どもの外遊び時間

2.3 「テレビ・インターネット」を1時間以上視聴する子どもが増加

外遊び時間が減少している一方で、「テレビやインターネット（ゲーム、動画、SNSを含む）」を1時間以上視聴する子どもが増加しています。

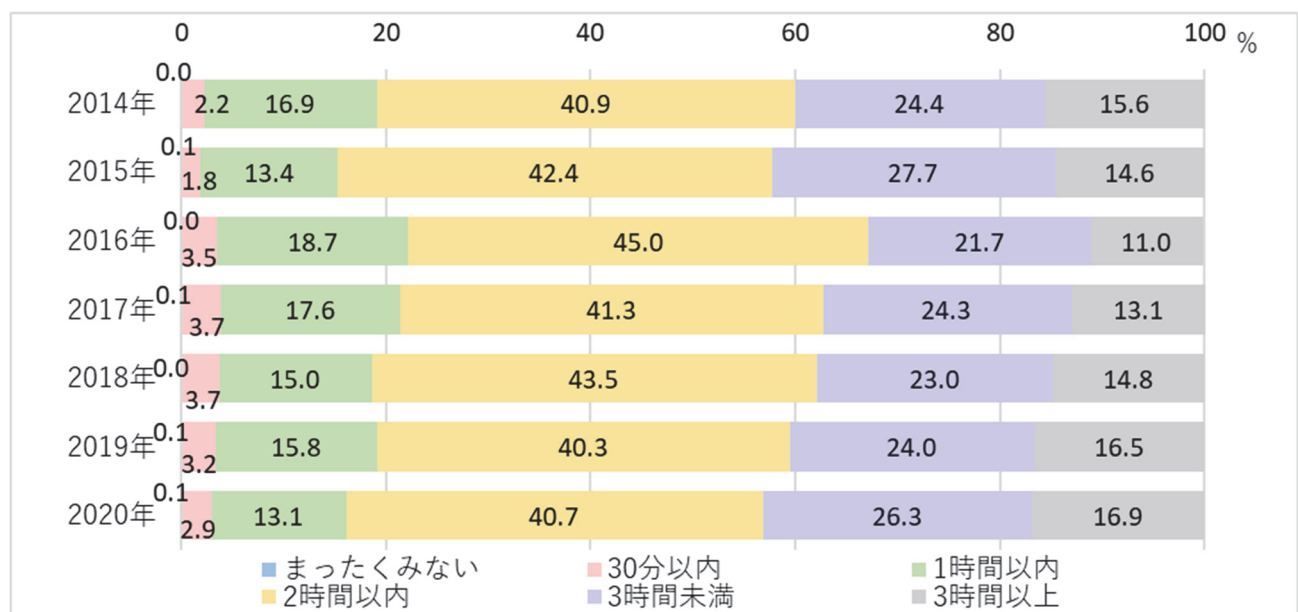


図 2-3 テレビ・インターネットの視聴時間

3 子どもの発達と健康

3.1 子どもの適応と精神的健康は年々、支援の必要性が低くなっている

子どもの適応と精神的健康について、SDQ日本語版を使って評価しました。SDQ日本語版は「情緒」「行為」「多動・不注意」「仲間関係」「向社会性」の5領域から構成されています。「情緒」は抑うつや不安など情緒の問題、「行為」は反抗挑戦性や反社会的行動、「多動・不注意」は不注意や集中力の欠如、「仲間関係」は友人からの孤立や不人気など、「向社会性」は協調性や共感性を、それぞれ意味します。「向社会性」のみ、点数が低いほど、それ以外の項目は点数が高いほど、支援の必要性が高いことを示します。

図3-1は、これまでの経年変化とMoriwakiらの全国の小学4年から6年生8,584名を対象とした調査結果（赤）*1を示しています。小学校入学前は支援の必要性が高かった「行為」「多動・不注意」「向社会性」も、入学後は支援の必要性が低くなっています。ただ、全国の小学4年生から6年生の結果と比較すると、「向社会性」以外の4項目において支援の必要性が高いという結果が示されました。特に「仲間関係」については、年中時以降ほぼ得点に変化がなく、同年代との仲間関係の形成に不安を抱えていることが推察されます。

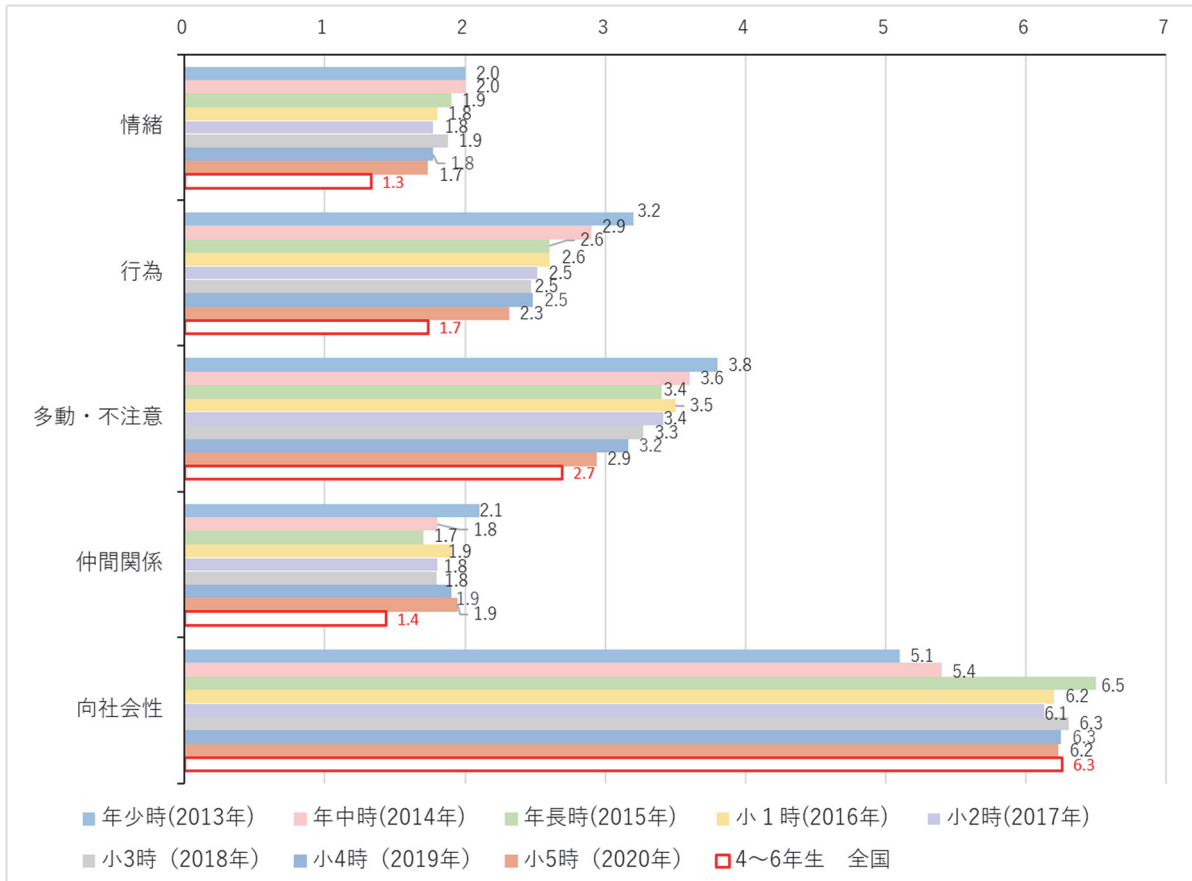


図 3-1 SDQ 得点

*1 Moriwaki A and Kamio Y, 2014, Normative data and psychometric properties of the strengths and difficulties questionnaire among Japanese school-aged children, Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health,21;8(1):1. doi: 10.1186/1753-2000-8-1.

3.2 SDQ 総合得点は、女子は全国調査より「正常」の割合が高く、男子は低い傾向

SDQ の 5 領域「情緒」、「行為」、「多動・不注意」、「仲間関係」、「向社会性」のうち、「向社会性」以外の 4 領域の点数を合計したものを、「SDQ 総合得点」と言います。SDQ 総合得点は、その得点に応じて「正常」「境界」「臨床」の 3 つに分けられます。図 3-2 は、SDQ 総合得点の経年変化を男女別に示したものです。

女子の「正常」の割合は、前掲の Moriwaki らの全国調査に比べ、その割合が高い状態が続いています。一方、男子は全国調査と比較して、「境界」「臨床」の割合が高く、なかでも「臨床」は全国調査においてその割合は 10.3%、本調査では 14.1%でした。

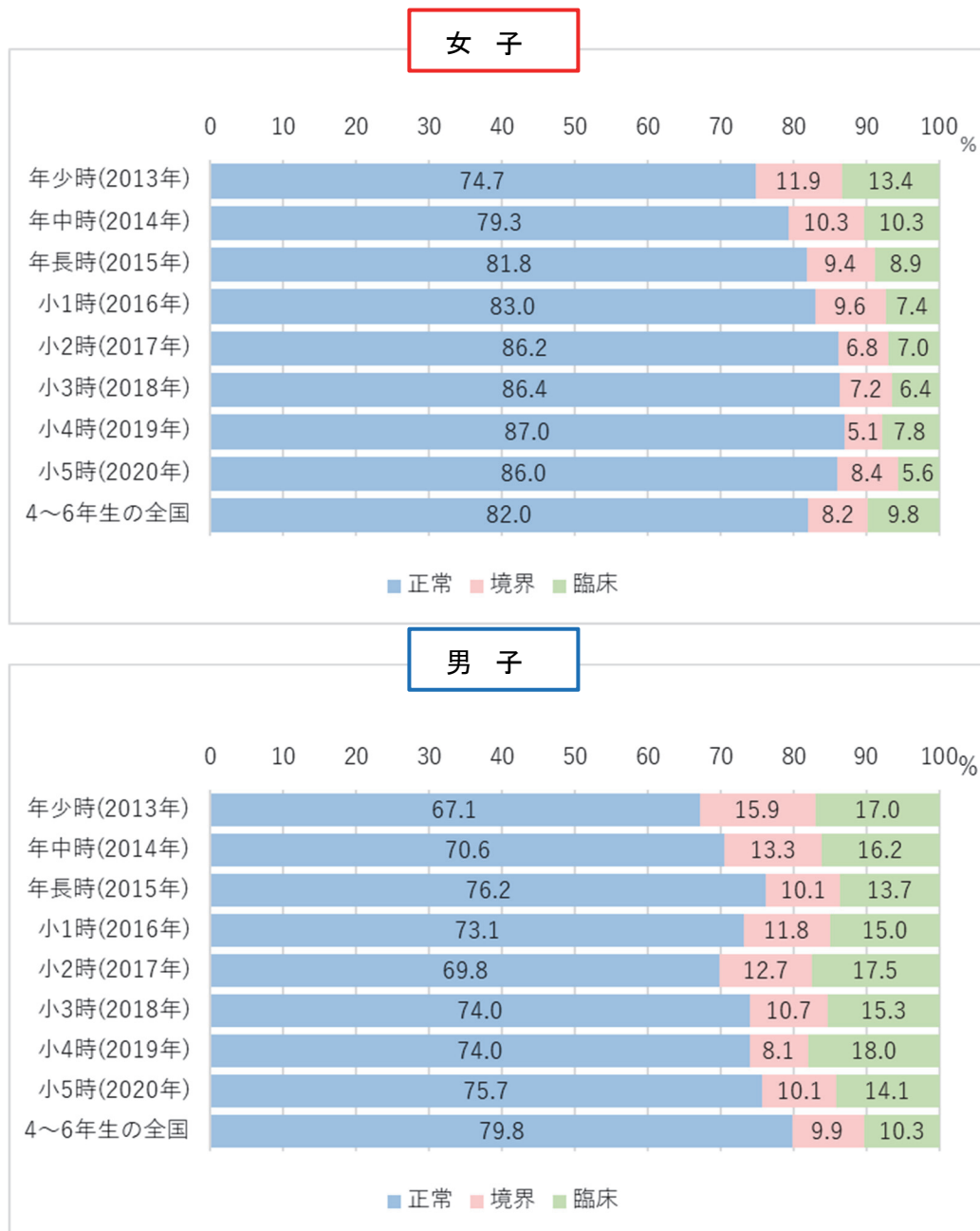


図 3-2 性別ごとの SDQ 総合得点

3.3 子どもの健康状態は「良好」が続いている

「良い」と回答した人の割合は2015年以降6～7割で推移しています。「良い」と「まあまあ良い」を合計した割合も9割後半を維持し、良好な状態であることがわかります。

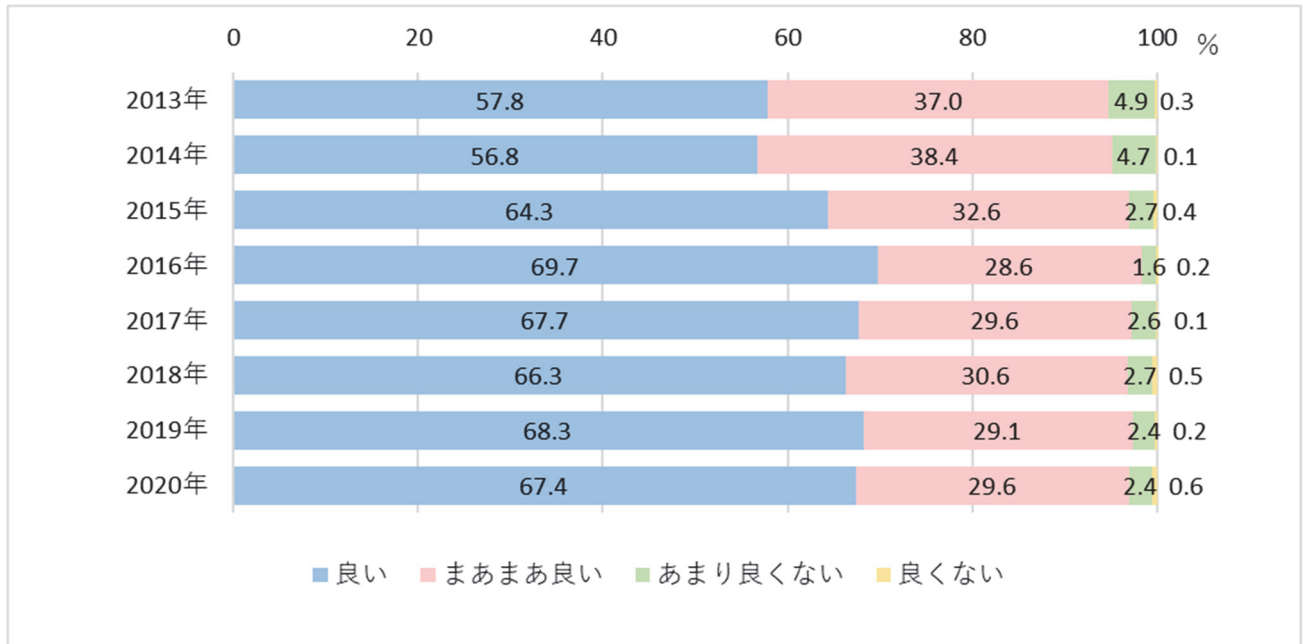


図 3-3 子どもの健康状態



3.4 子どもの症状のうち最も多いのは「皮膚のかゆみ」

これまでと同様に、もっとも多い症状は「皮膚のかゆみ」、続いて「せきが出る」「疲れやすい」「腹痛・胃痛」「頭痛」の順でした。これらの症状は、質問項目が本調査と異なるため単純には比較できませんが、2013年の「国民生活基礎調査」の10-14歳の有訴率においても上位を占めている症状でした。ただ、「国民生活基礎調査」での有訴率（人口千人あたり）は、「せきやたんが出る」が27.7、「かゆみ（湿疹・水虫など）」22.0、「せきやたんが出る」27.7、「体がだるい」17.1、「腹痛・胃痛」13.4、「頭痛」21.7でしたので、本調査の結果は全国に比べるとかなり有訴率が高いこととなります。

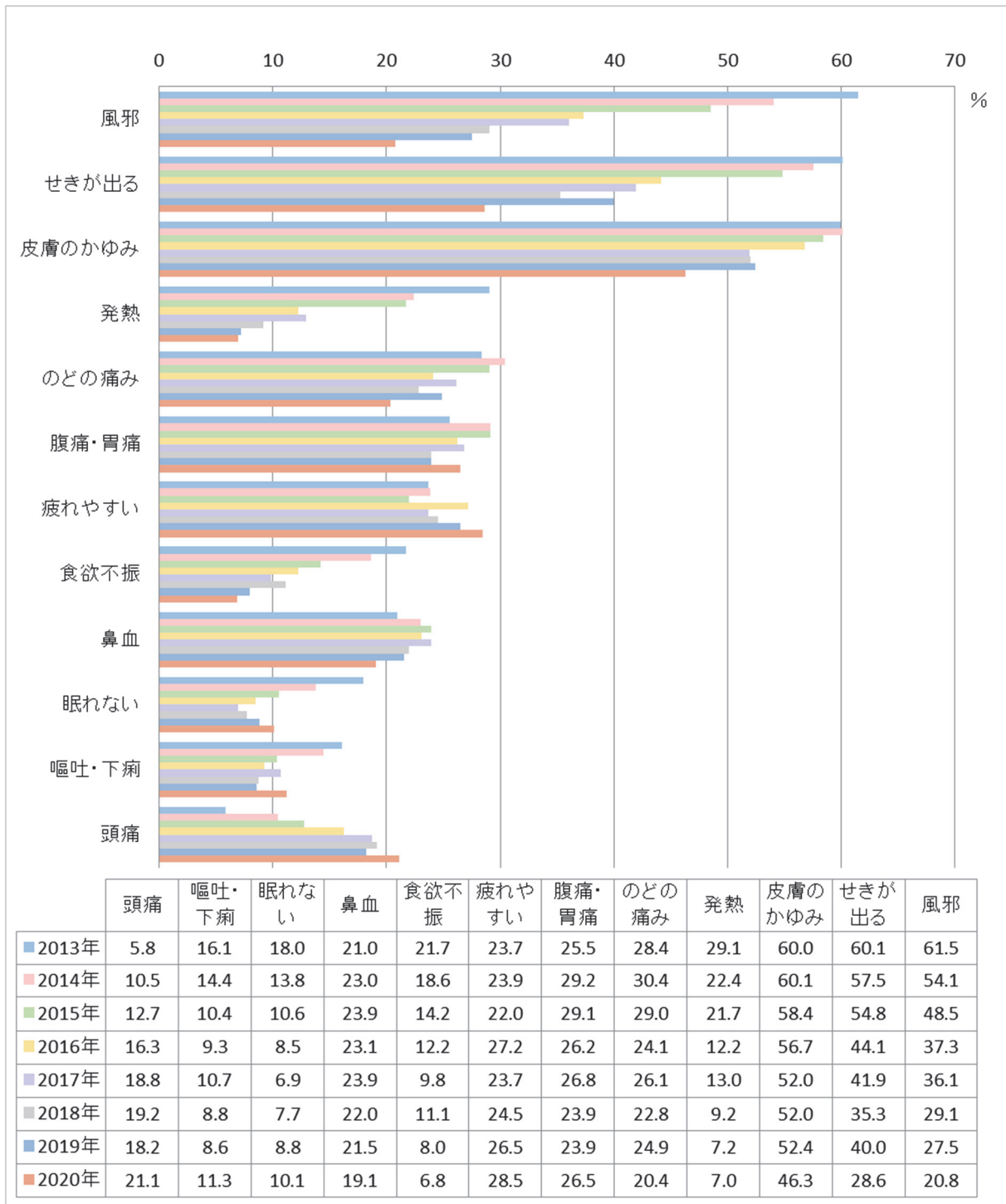


図 3-4 ここ半年間の子どもの症状 * 「よくある」+「ときどきある」の割合

4 母親の心身の健康

4.1 6割以上の方に「イライラ・怒りっぽい」「疲れやすく身体がだるい」との訴え

下の項目は、「災害後に特化した心の健康状態」を評価する指標（SQD）です。本来12項目ですが、ここでは上位6項目を示しています。

災害から9年近く経過した時点で、6割以上の方が「イライラ・怒りっぽい」「疲れやすく身体がだるい」、4割以上の方が「寝つけない、途中で目が覚める」と訴えています。これは、次に示す図4-2の「一般的な心の健康状態」を評価する指標（K6）においても、「神経過敏」「気が晴れない」「何をするのも骨折り」の有訴率が高いことと符合しているように見受けられます。

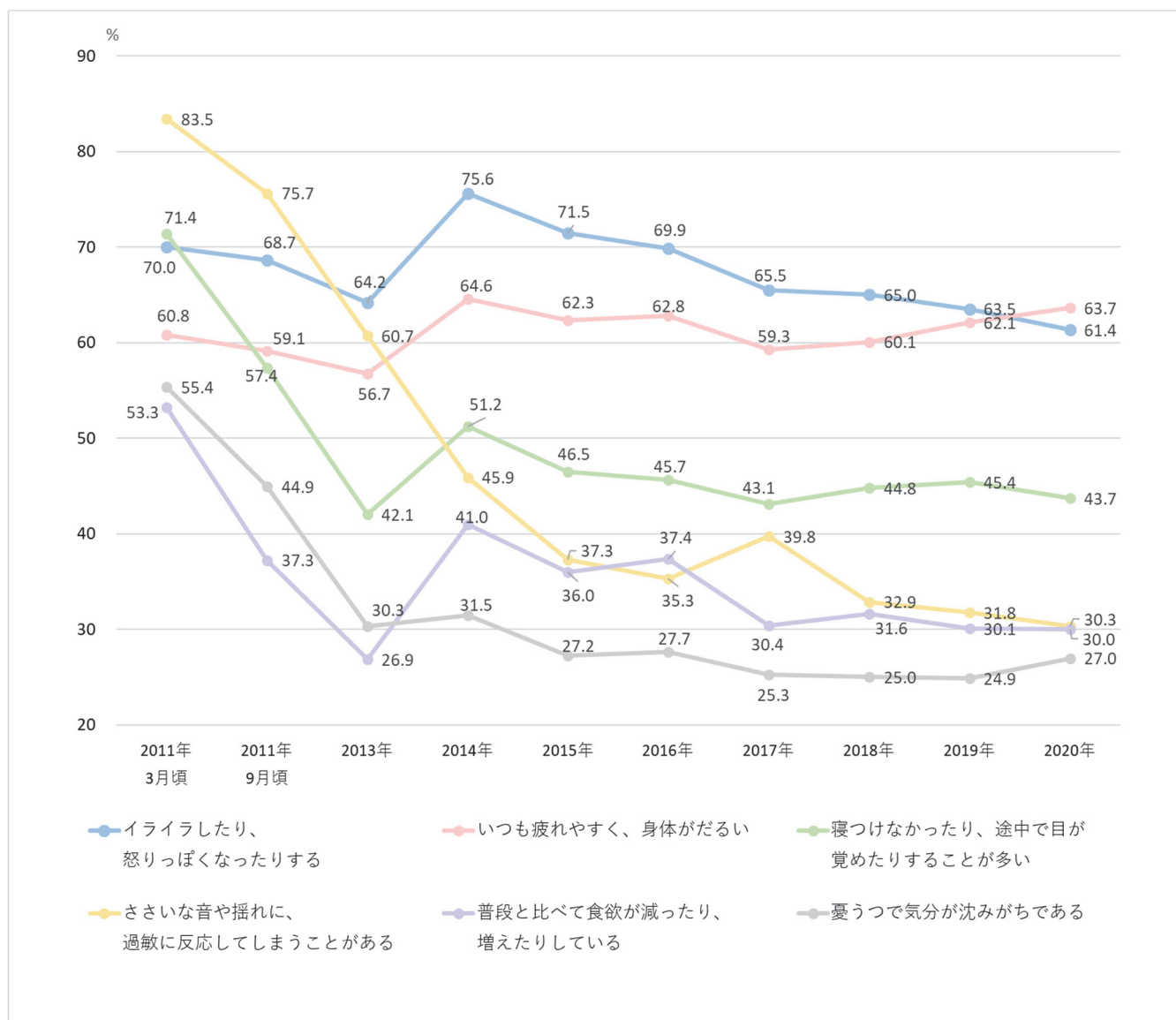
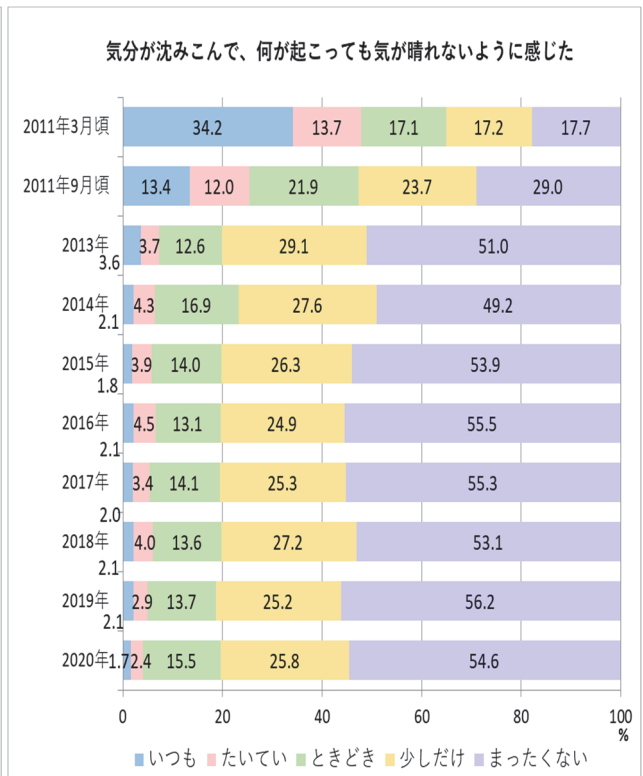
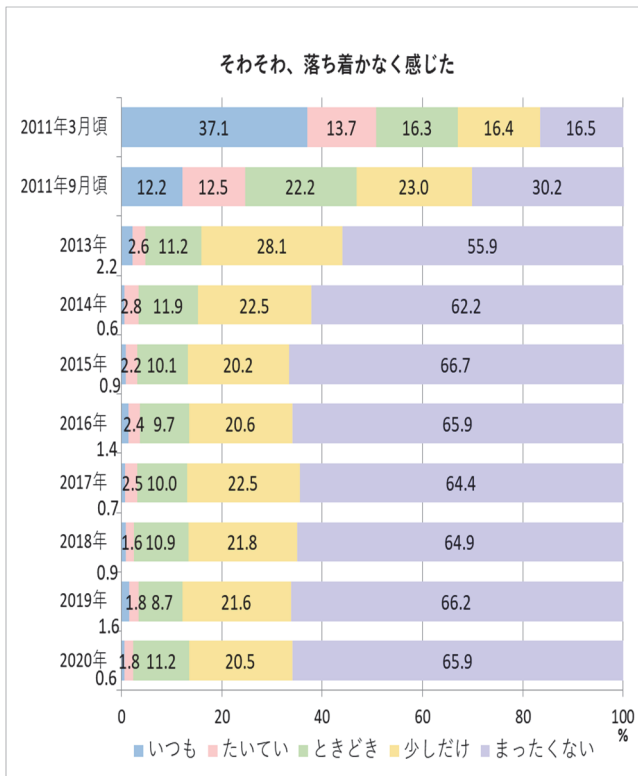
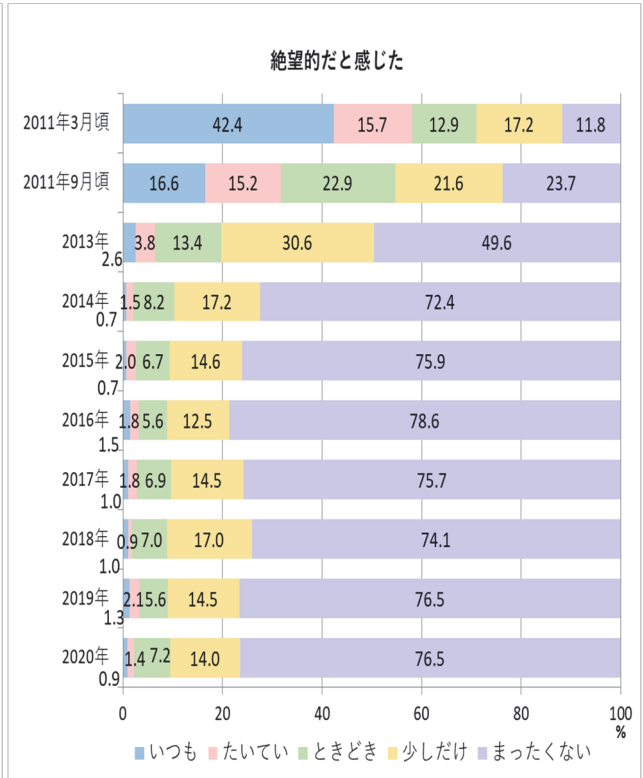
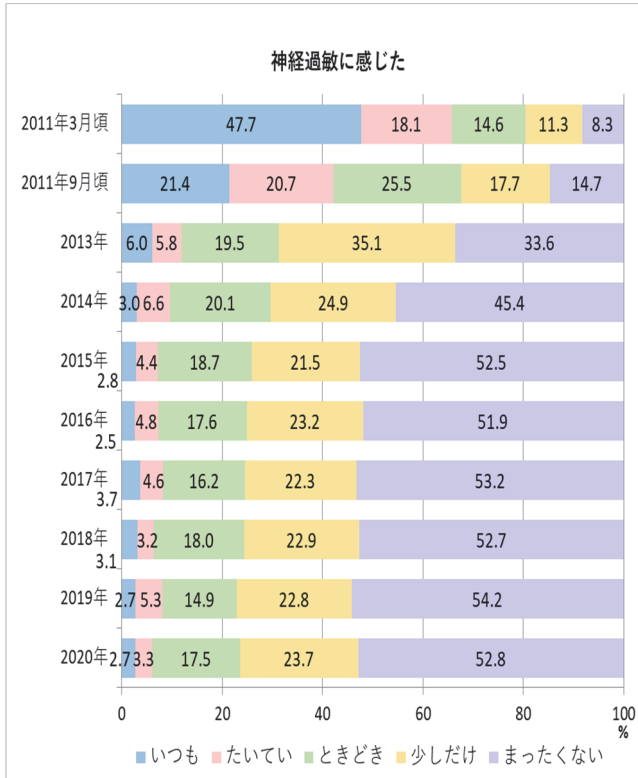


図 4-1 災害後の母親の心の健康状態

* 「よくある」+「ときどきある」の割合

4.2 母親の心の状態は安定している

下記6項目は、心の健康状態を調べる際に広く利用される指標（K6）です。原発事故直後から半年後にかけて母親の心の状態は不安定でしたが、その後、安定しています。ただ、「神経過敏」「気が晴れない」「何をするのも骨折り」の3項目については、ここ数年、「いつも」「たいてい」「ときどき」が2割前後で推移しています。



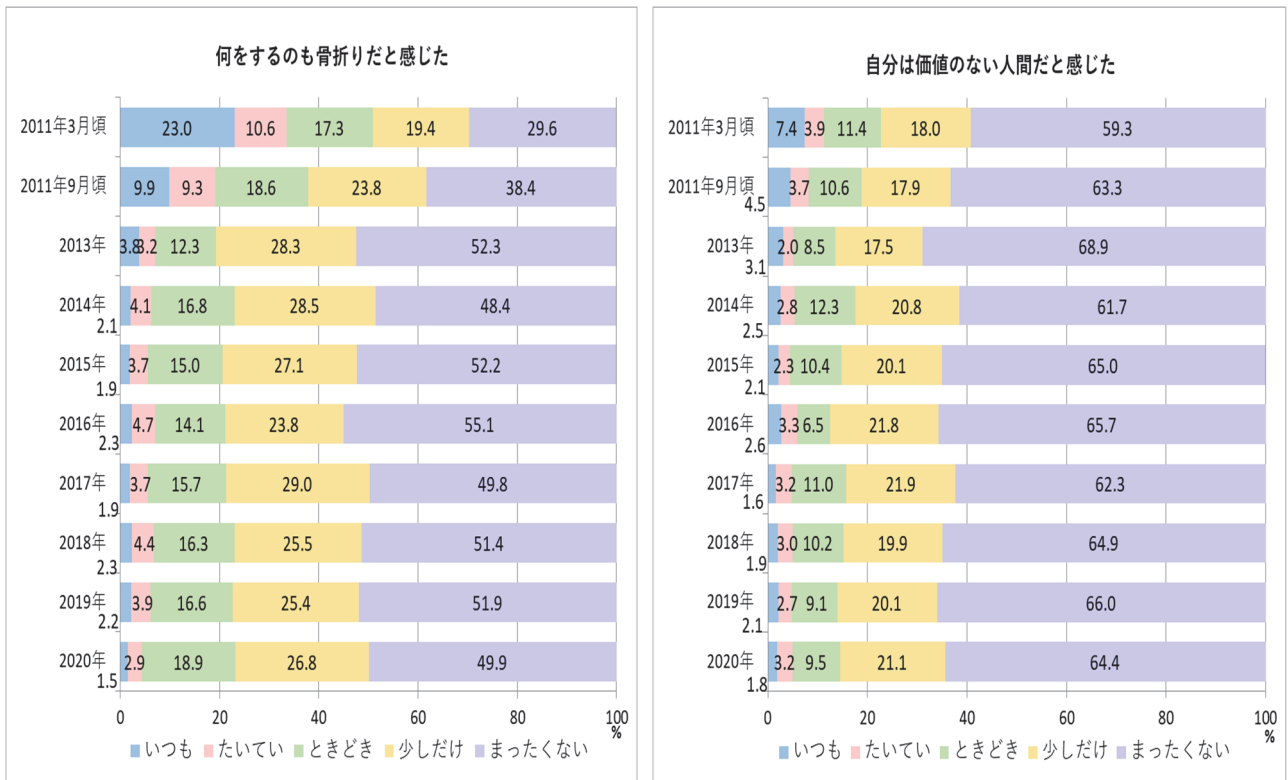


図 4-2 母親の心の健康状態

4.3 母親の健康状態もおおむね良好

母親の健康状態は「良い」と「まあまあ良い」を合計した割合が2015年以降継続して8割を超えており、おおむね良好であることがわかります。

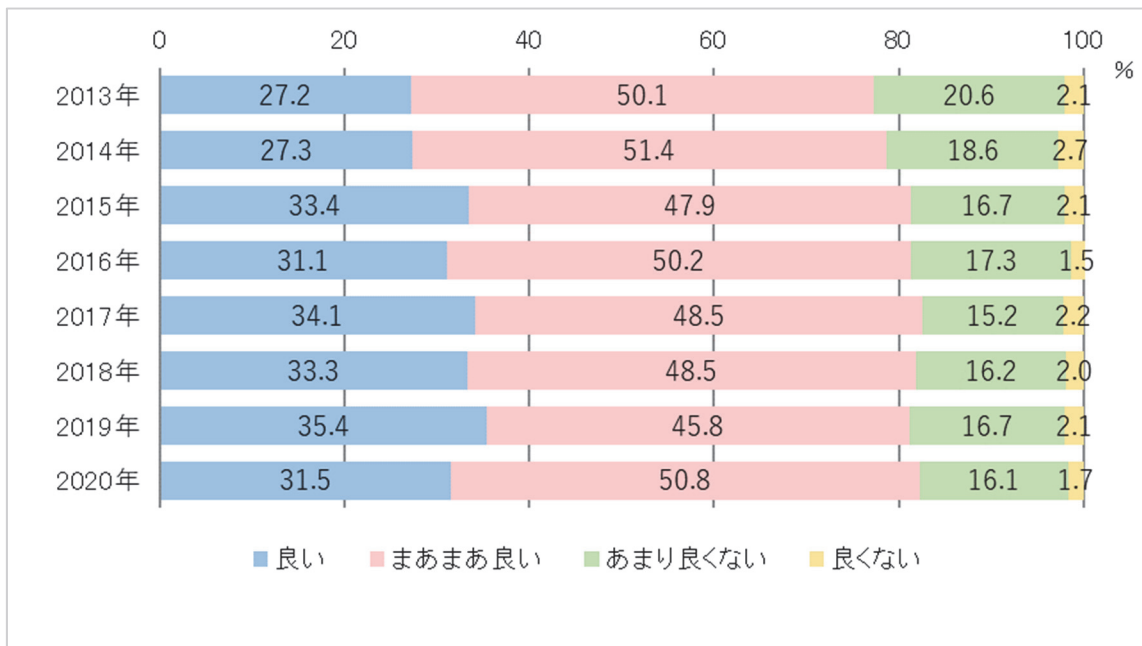


図 4-3 母親の健康状態

4.4 母親の症状の上位3位は昨年同様「肩こり」「頭痛」「腰痛」

これまでと同様に、母親の8割近くが「肩こり」を、6割以上が「頭痛」「腰痛」を抱えていることがわかりました。この3つの症状は、2018年の「国民生活基礎調査」における40-49歳の女性の有訴率でも上位の3症状でした。特に、「肩こり」と「腰痛」は全国的にも女性が特に苦痛を感じる症状のようです。

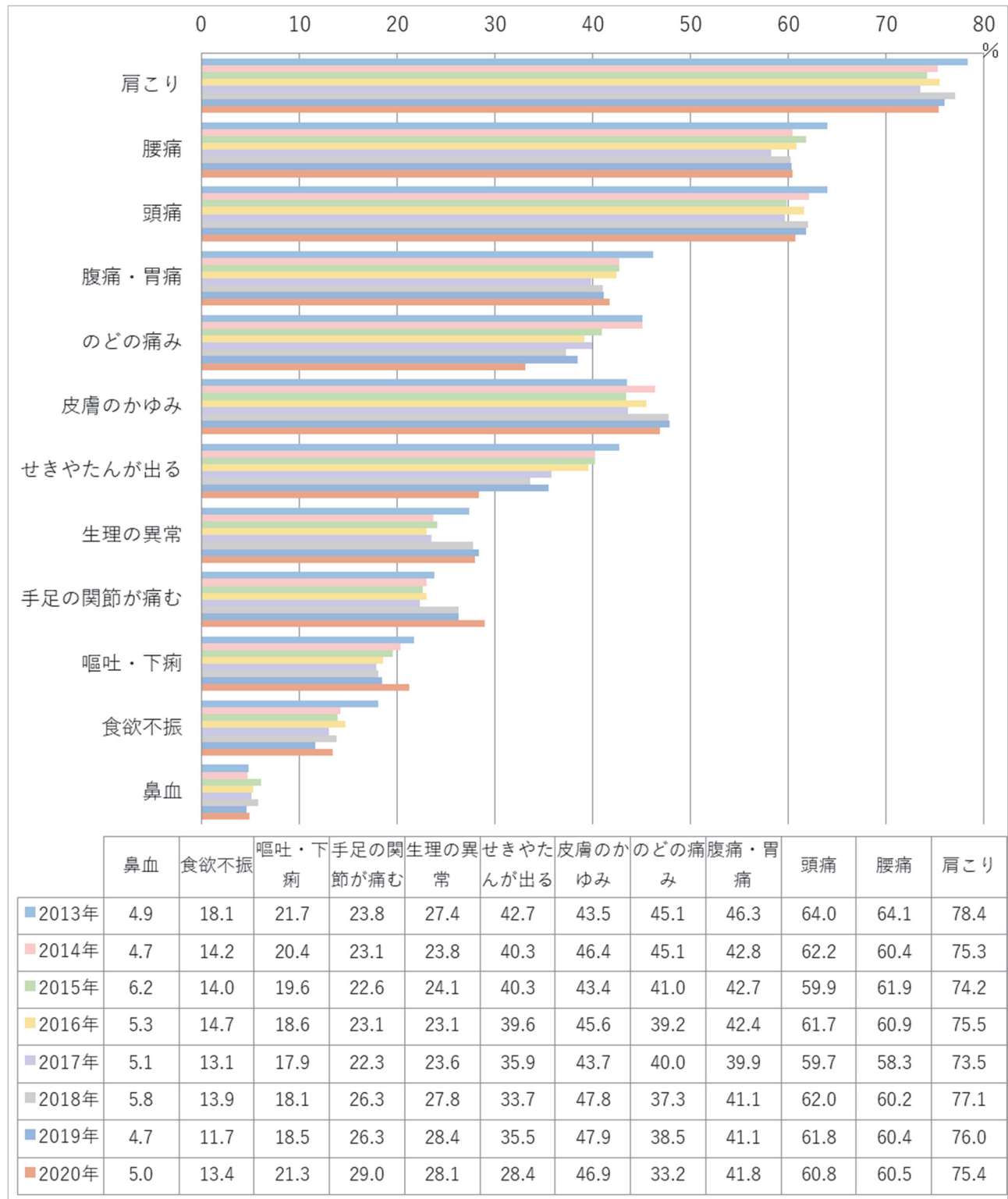


図 4-4 ここ半年間の母親の自覚症状

* 「よくある」+「ときどきある」の割合

5 原発事故後の生活変化

5.1 地域の放射能汚染の深刻度、7割以上が「深刻ではない」と回答

「お住まいの地域の放射能汚染について、どの程度深刻だと考えているか」については、「深刻ではない」「あまり深刻ではない」を合計した割合が2019年以降7割を超えました。一方、事故から9年が経過しても、25.7%の方が「深刻」「ある程度深刻」だと考えています。

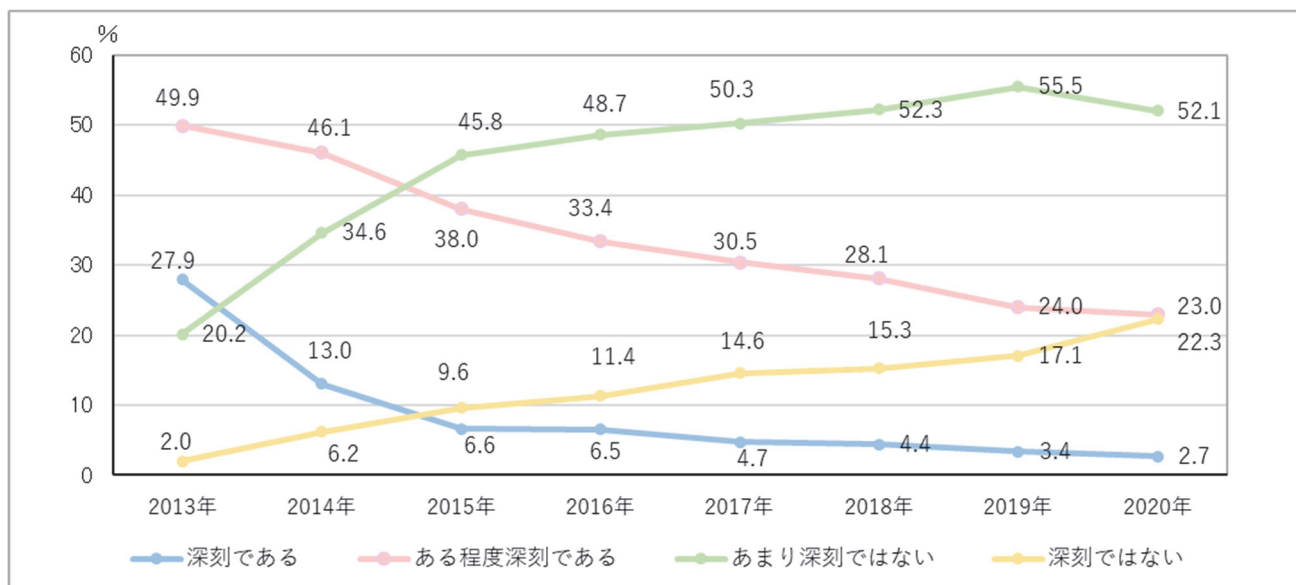


図 5-1 放射能汚染の深刻度

5.2 放射能に関する情報源は「テレビ」が中心

放射能に関して参考に使っている情報源を複数あげてもらったところ、テレビが65.1%で最も多く、次いで、役所・保健所・医療機関（47.2%）、インターネット（44.1%）新聞（39.5%）でした。

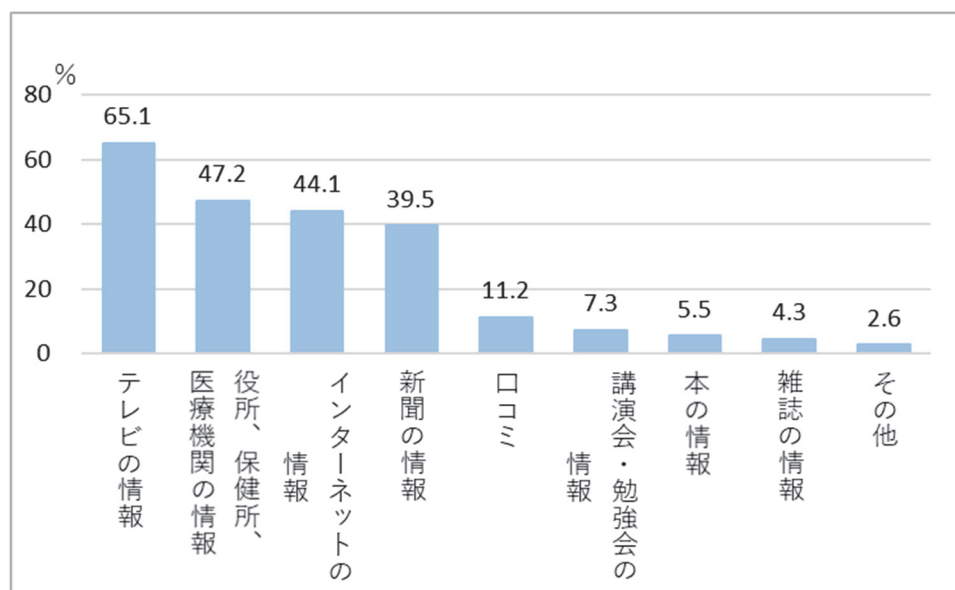


図 5-2 放射能に関する情報源

5.3 「補償不公平感」「情報不安」「いじめ・差別不安」が高止まり

原発事故後の生活変化には4つの傾向が確認できます。

1つめは、事故から9年近く経過した時点で、6割以上が「あてはまる」と回答し、高止まり傾向が続いているのが「補償をめぐる不公平感」です。

2つめは、ゆるやかな減少傾向にある項目、「放射能の情報に関する不安」「いじめや差別への不安」「健康影響への不安」「経済的負担感」「保養への意欲」「子育てへの不安」です。

3つめは、「あてはまる」が急激に減少し、その後、横ばいとなっているのが、「地元産の食材を使用しない」「洗濯物の外干しをしない」「避難願望」の3つの項目です。

4つめは、事故直後から該当者が少ないながらも、一定の割合で推移している項目、「放射能への対処をめぐって配偶者、両親、周囲の人との認識のずれ」です。

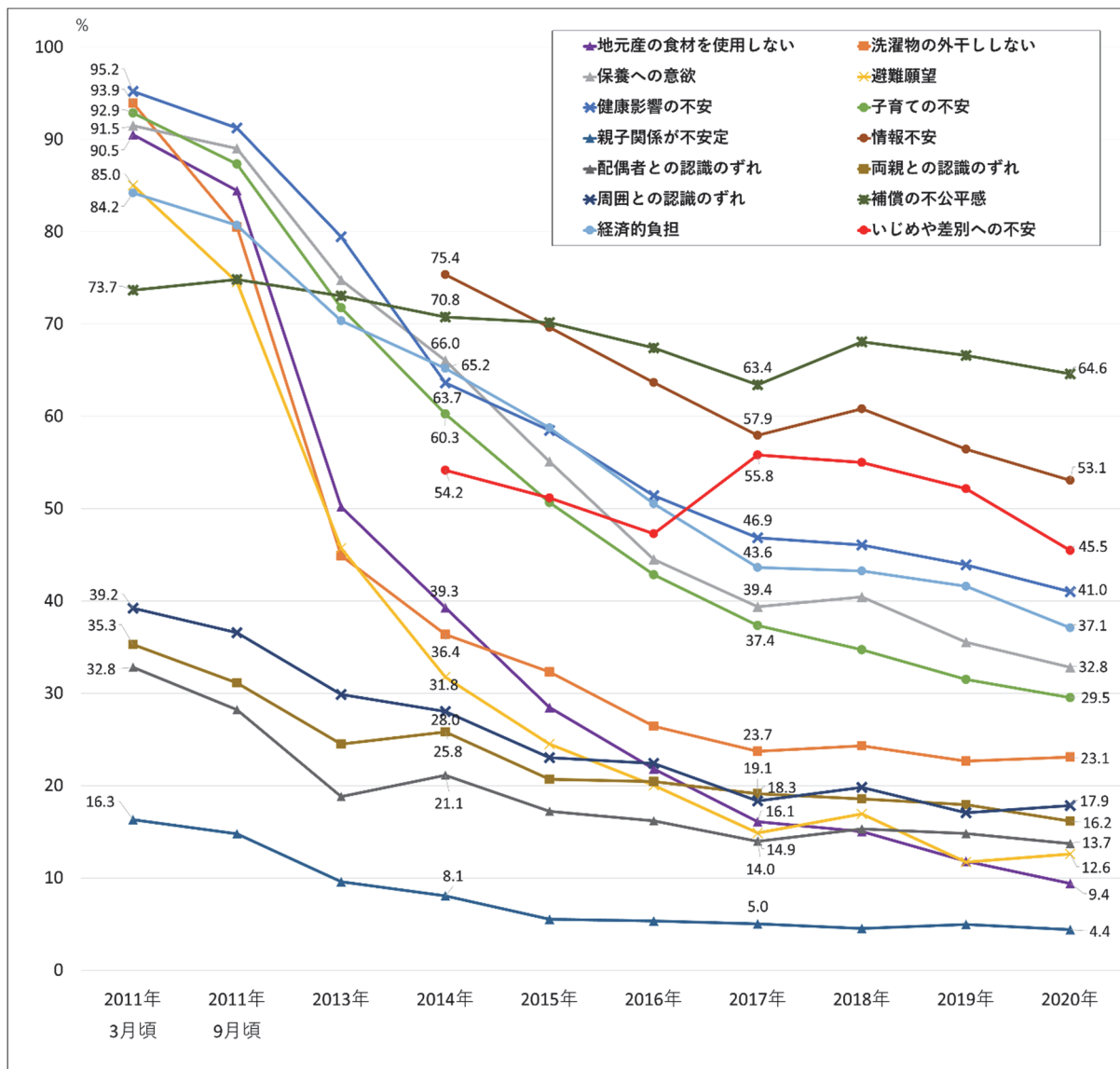


図 5-3 原発事故後の生活変化

* 「あてはまる」 + 「どちらかといえばあてはまる」の割合

5.4 4割以上が「子どもの将来」の健康と心への影響を懸念

すべての項目において、年々、その割合が低下しているものの、子どもの将来の健康と心への影響は、依然として4割以上の方が懸念していることがわかりました。

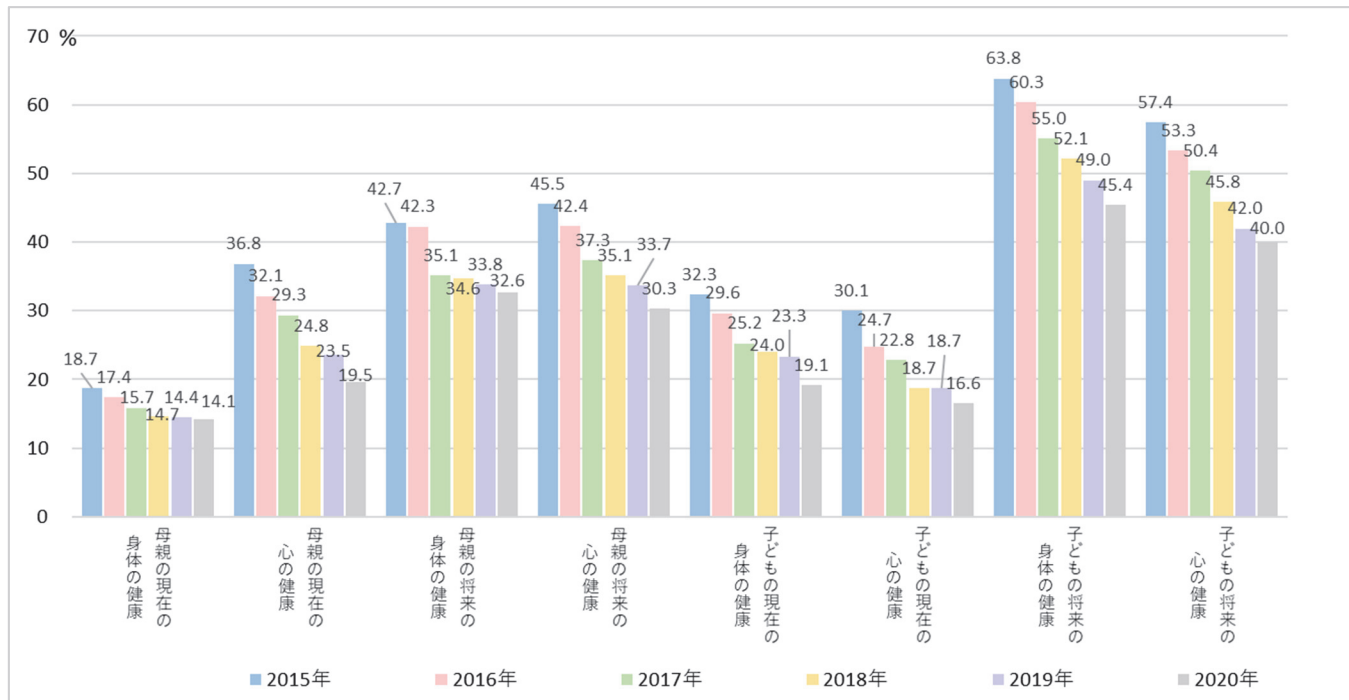


図 5-4 健康に対する放射能の影響度
*「影響がある」+「少し影響がある」

5.5 保養に「出かけていない」方が増加

2017年から「出かけていない」という回答が最も多くなり、その割合は増え続けています。一方、「たまに出かける」と「よく出かける」は年々減少しています。

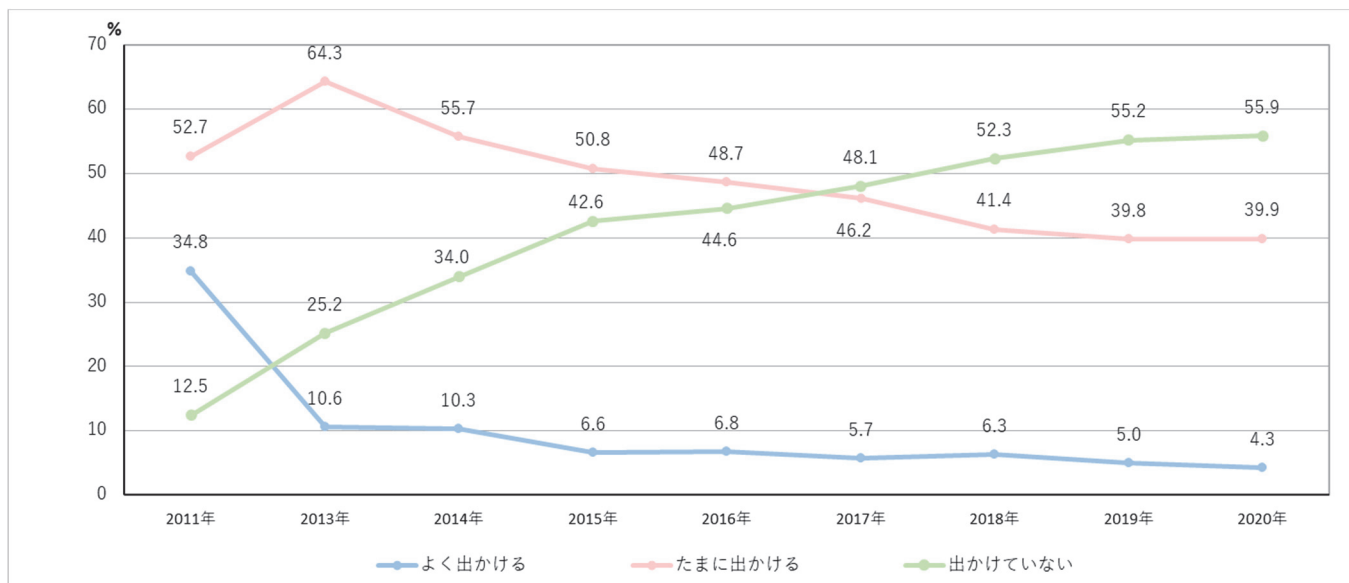


図 5-5 保養の頻度

5.6 半数以上が望む「学校や教育施設の質が良いまち」

これからの福島をどんなまちにしていきたいかを複数あげてもらったところ、「学校や教育施設の質がよいまち」が 51.7%で最も多く、次いで、「医療や福祉が充実したまち」（47.2%）、「犯罪・事故が少ない安全・安心なまち」（40.3%）、「自然災害に強いまち」（37.9%）でした。

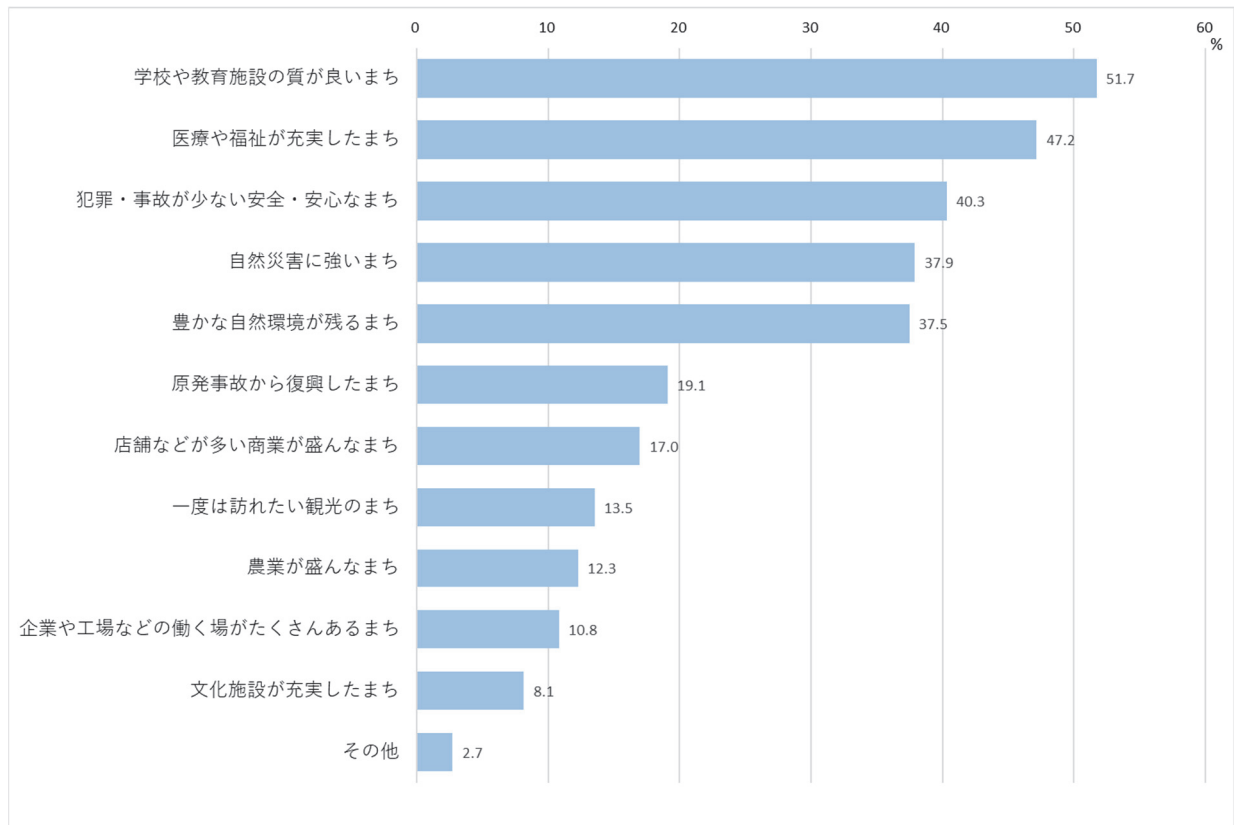


図 5-6 これからの福島をどんなまちにしていきたいか

その他の意見（記載されたすべての項目を掲載）

- ・子育てがしやすいまち（3人）
- ・自然環境が安心・安全なまち（3人）
- ・正しい情報を共有できるまち（2人）
- ・思いつかない。期待していない。（2人）
- ・コンパクトシティの推進（1人）
- ・発達障害者の家族にとって住みやすいまち（1人）
- ・仙台のベッドタウン（1人）
- ・風評被害がないまち（1人）
- ・元の福島に戻ってほしい（1人）
- ・貧富の差がないまち（1人）
- ・公共交通機関が充実した便利なまち（1人）
- ・放射能による健康被害にすぐ対応してくれるまち（1人）
- ・魅力的なまち（1人）
- ・原発に頼らないまち（1人）



5.7 市町村と福島県に対しては6割が「評価する」「ある程度評価する」

原発事故後の取り組みについては、「市町村」「福島県」は6割近い方に評価されています。「国」「東京電力」についての評価も徐々に高まっていることがわかります。

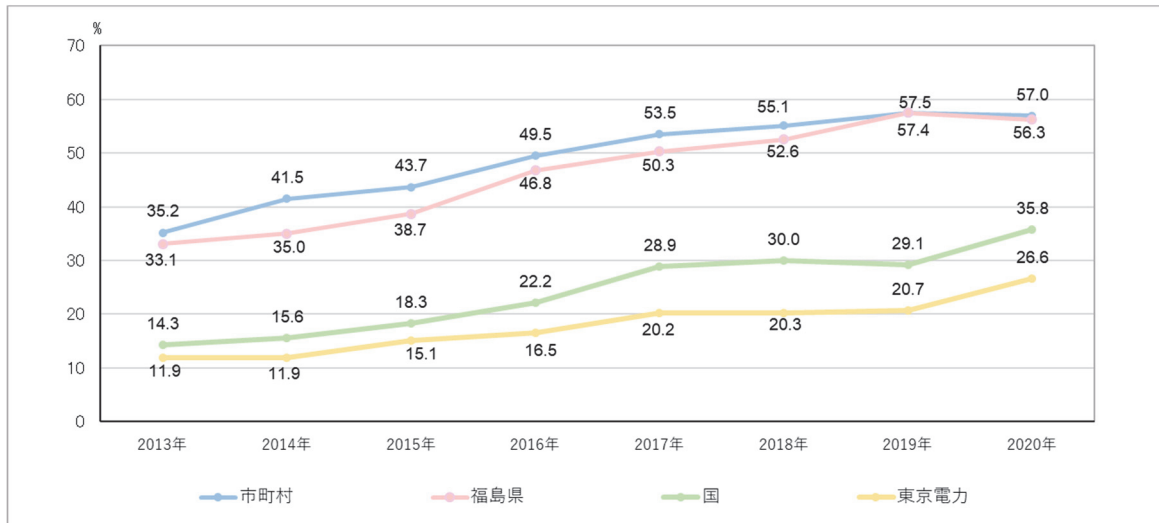


図 5-7 行政と東京電力への評価

* 事故後の取り組みを「評価する」+「ある程度評価する」の割合

5.8 約3割の方が居住地域で原発事故や放射能について「話題にしにくい」

約3割の方が、原発事故や放射能について話題にしにくいと感じています（「感じる」+「どちらかといえば感じる」の割合）。

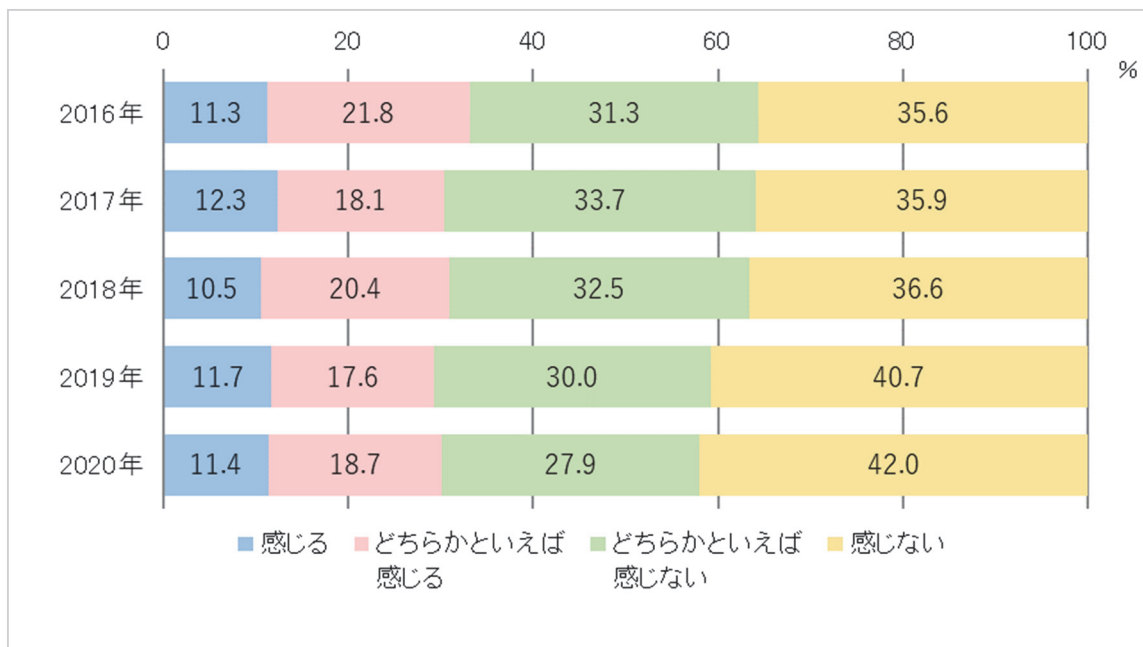


図 5-8 原発事故や放射能について話題にしにくい

5.9 居住地で9割近くの方が原発事故の風化を「感じる」と回答している

風化を感じるという方の割合は、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計すると、87.3%と9割近くに達します。

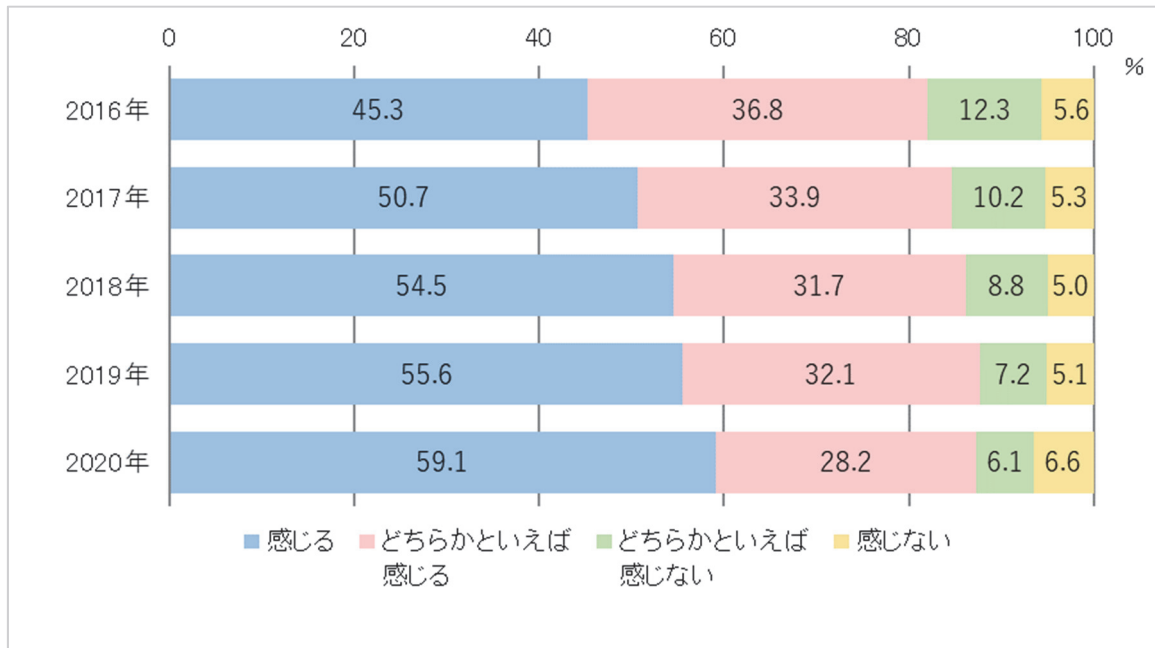


図 5-9 原発事故の風化



6 地域とのかかわりと居住意識

6.1 地元への愛着、誇り、人間関係の良さなど肯定的な回答が多い

「この地域が好きである」「近所同士の仲はうまくいっている」「自分のまちだと感じる」と回答した人の割合が2017年以降8割を超え、地元への愛着が事故以前の値とほぼ同等になってきていることがわかります。一方、「近所の人はいかに緊密な関係である」に関しては、一貫して5割前後を示しており、近所づきあいについて適度な距離を保って生活している様子がうかがえます。

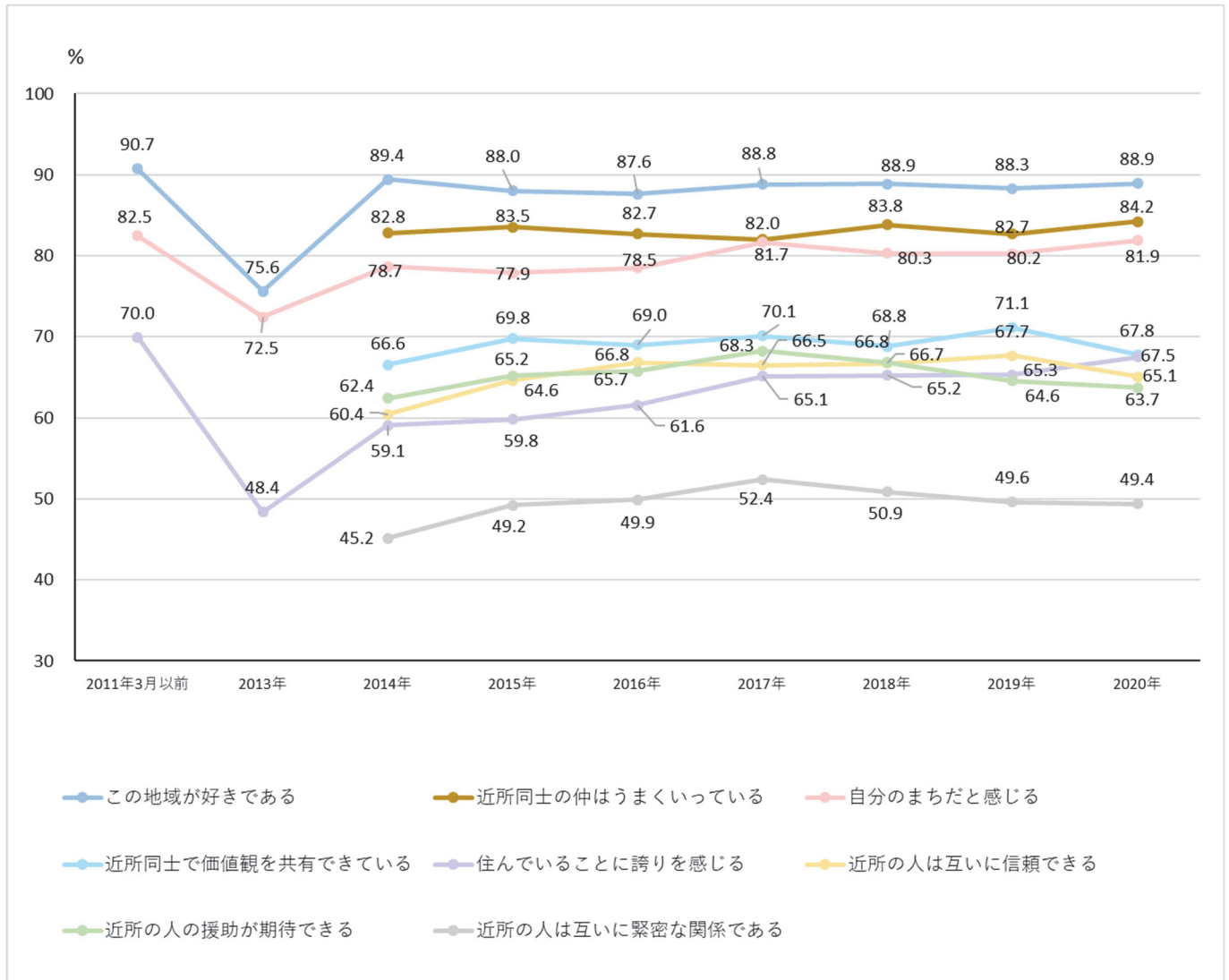


図 6-1 地域への愛着や人間関係の良さ

* 「あてはまる」 + 「どちらかといえばあてはまる」の割合

注) 「この地域が好きである」「自分のまちだと感じる」「住んでいることを誇りに感じる」以外の5項目は、2014年の調査から設問に追加しました。

6.2 居住意思は「住み続けたい」が圧倒的に多い

現在の地域での居住意思では、9割の方が「ずっと住み続けたい」「当分住み続けたい」と回答しています。

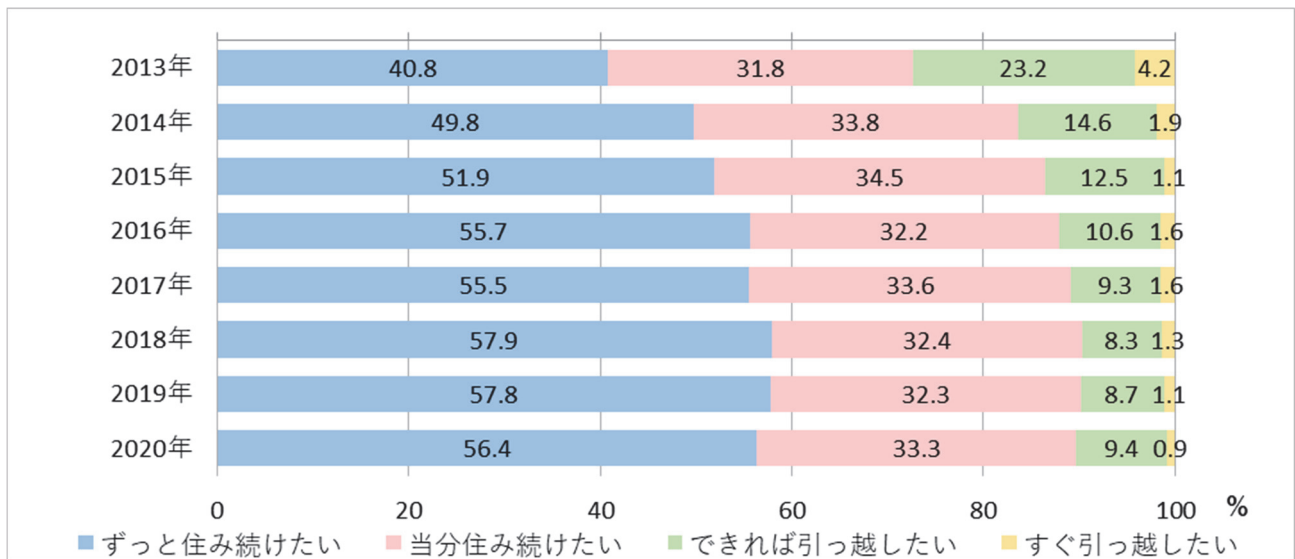


図 6-2 現在の地域での居住意思



7 回答者の特性

子どもとの続柄

| | | n= | 母 | 父 | 祖母 | 祖父 | その他 |
|---------|--|-----|------------|----------|---------|-------|-------|
| 2020年調査 | | 702 | 663 (94.4) | 36 (5.1) | 3 (0.4) | 0 (0) | 0 (0) |

母親の婚姻状況

| | | n= | 既婚 (有配偶者) | 既婚 (離・死別) | 未婚 |
|---------|--|-----|--------------|--------------|---------|
| 2020年調査 | | 663 | 612 (92.3) | 45 (6.8) | 6 (0.9) |

母親の年齢構成

| | | n= | 30～34歳 | 35～39歳 | 40～44歳 | 45歳～ |
|---------|--|-----|----------|------------|------------|------------|
| 2020年調査 | | 660 | 35 (5.3) | 174 (26.4) | 266 (40.4) | 184 (27.9) |

(未回答 3)

8 自由回答欄の声

自由回答欄には多くの意見が寄せられました。これまでの調査の自由回答記入数は以下の通りです。今回の第8回調査の自由回答については、18項目に分けて紹介します。数字は、「福島子ども健康プロジェクト」事務局で読んで数えた意見数です。ただし、分類項目の間には重複を含んでいます。

| | 回答総数 (2020/3/23 時点) | 自由回答 記入数 | 記入率 | 文字数 | 一人当たり 文字数 |
|-------|------------------------|-------------|-------|---------|--------------|
| 第1回調査 | 2,628 | 1,203 | 45.8% | 252,047 | 209.5 |
| 第2回調査 | 1,606 | 718 | 44.7% | 153,938 | 214.4 |
| 第3回調査 | 1,209 | 746 | 61.7% | 151,677 | 203.3 |
| 第4回調査 | 1,021 | 612 | 59.9% | 117,171 | 191.5 |
| 第5回調査 | 912 | 549 | 60.2% | 100,690 | 183.4 |
| 第6回調査 | 832 | 451 | 54.2% | 82,812 | 183.6 |
| 第7回調査 | 805 | 440 | 54.7% | 84,872 | 192.9 |
| 第8回調査 | 702 | 370 | 52.7% | 69,601 | 188.1 |

| 自由回答分類 | 言及した自由回答の数 | | | |
|------------------|------------|-----|-----|-----|
| | 第5回 | 第6回 | 第7回 | 第8回 |
| 風化 | 105 | 71 | 83 | 117 |
| 子どもの将来の健康不安・補償不安 | 109 | 89 | 97 | 59 |
| 放射線量・土壌・食料不安 | 53 | 62 | 57 | 53 |
| もとに戻っている | 51 | 40 | 53 | 42 |
| 賠償金・対象者への不満 | 64 | 52 | 71 | 40 |
| 国・県市町村・東電の対応 | 37 | 34 | 35 | 39 |
| 差別不安 | 162 | 50 | 44 | 36 |
| 事故を思い出す | - | 15 | 29 | 20 |
| 避難と帰還をめぐる思い | 13 | 16 | 18 | 20 |
| 現在の健康 | - | 15 | 31 | 19 |
| 風評不安 | 19 | 15 | 24 | 19 |
| 保養 | - | 11 | 18 | 14 |
| 甲状腺検査 | 27 | 18 | 35 | 12 |
| 地震 | 46 | 7 | 22 | 9 |
| 情報不安 | 13 | 26 | 28 | 8 |
| 家族、友人、知人との不和や葛藤 | - | - | 15 | 6 |
| 原発の是非 | 14 | 20 | 9 | 5 |
| モニタリングポスト | - | - | 17 | 4 |

| | |
|--------------------------------------|--|
| 風化を感じる 117件 原発事故 を忘れている | 去年は災害が多く、その時に東日本大震災の時のことをよく話しました。災害に強い町づくりを市・県・国にして欲しいです。福島原発事故をテーマにした映画が公開されます。風化されつつある震災をもう一度考えるいい機会にもなると思います。 |
| | 東日本大震災のことは風化しつつあると感じる。自分自身もあの時の出来事がまるで夢の中でおこっていたことのように感じる時がある。もしあの時に地震がなければ…、原発事故がなければ…と、自分の生活や避難した知人たちのことを考えることがよくある。 |
| | 私が住んでいる福島市内は、私も含め、周りの人も今は一切、原発事故のことを口に出して話をする機会がありません。住んでいる私たち自身、日常におわれてしまい、すっかり忘れて生活しているのが実情です。もちろん、震災の日になると、TVのニュース等で話題になるので、その日だけ思い出して、震災の当日をなつかしく感じ、被害にあわれた方々をしのんだりしますが…。原発事故の影響についても、日々忘れて生活しています。今を大切に、今を楽しく、今を精一杯生きる…常にそう思って生きています。遠い未来（将来）を考えるより、近い未来…1、2年先のことを考えて生きています。だって、いつ、どこで何が起こるか分からないから…。後悔はできるだけ少ないほうが良いと思うので、自分の思い、家族の思いを大切に生きています。 |
| | 娘は震災の日のコトを覚えていません。不安になることがなくてよかったと思います。自分も震災のコトは、忘れてしまっている感じです。風化してほしいけど、毎日を生きていくためには、震災にこだわってばかりはいられません。前を向くしかありません。 |

| | |
|--|--|
| 子どもの 将来の 健康不安・ 補償不安 59件 今は健康でも 将来は健康か という不安 何かあった ときに補償は あるのか という不安 | 明らかな身体への影響がないので、どんどん当時の不安な気持ちは薄れていきます。ただ、時々ふと、本当に大丈夫なのかな、とか、あと数十年後とかに影響が出たら、補償はしてもらえるのかな、生きていくのに不自由はないかなと思うことはあります。 |
| | 震災があったことも原発事故もほとんど思い出す事もなくあったことも忘れるくらいです。しかし、将来、子どもの身体に何か影響が出たら、子どもたちが子どもを産んでその子どもに影響があった場合、どうしたら良いかわかりません。これは、そうなるまで、ずっと頭のどこかで心配している状態にあると思います。 |
| | とにかく、子どもたちの健康だけは、責任を持って、国が最後まで見守り、かつ、補償してほしい。 |
| | もう9年、まだ9年という感じはありますが、子どもたちの成長を見ることで年月の流れを感じています。今のところ健康状態は良好ですが、まだまだ心配は正直の所つきません。体調管理、検査をしっかりとっていくことで、安心してくらしていけるようにしていきたいと思います。 |

| | |
|---|---|
| 放射線量・土 壌・食料への 不安 53件 空間線量 除染土 地元の食料へ の不安 | スーパーなどで売っている地元産の食材は購入して食べています。自家栽培で作った野菜などを時々いただくことがあります。子どもたちに食べさせるのがこわくて、そのまま処分してしまうこともあります。後ろめたさを感じながらも、そのような行動をとってしまう自分がいて、9年経っても変わらないのだなととてもガッカリしています。 |
| | 家で育てている野菜はすべて放射能検査をしてからでない食べないようにしているがずっとそれをやっけていかなないと食べられない気がする。←それが現実だから。終息宣言はいつになるのか。 |
| | 放射能、除染など…原発事故に関しての話は出ずになってきました。忘れてはいけないことだと思っているので（口には出しませんが）未だ、食べ物、気にしています。子どもたちが無事成長できるよう願うのみです。 |

| | |
|--|--|
| | 除染が進み、数値的には下がってきているようです。県内で子どもを遊ばせることを屋内、屋外問わず、させていますが、海だけは、海水浴はさせません。海産物も福島だと食べたくはないと思います。海水浴は日本海に行くことにしています。これは、ずっと変わらないと思います。 |
|--|--|

| | |
|--|--|
| <p>生活がもとに戻ってきている 42件</p> <p>震災前と変わらない生活に戻っている あるいは戻りつつある</p> | <p>原発事故について考えている暇がないほど、毎日の子育てでバタバタしている。ふと考えると、安全安心宣言が出ている訳でもないのに、小学校生活も、震災前と同じようになっていくことに気づく。たとえば、放射能が不安だと思ったところで、状況を変えることができるわけでもない。ただ毎日の生活に追われて過ぎていくだけ。実際は、このようなアンケートが届いた時にだけ、震災のことや事故のことを考え、一瞬不安になるだけで、あとはまた、日々の生活に追われていくだけ。</p> |
| | <p>この一年、震災のことを気にすることはありませんでした。以前の生活に戻ってきていると感じます。畑で野菜を作ってそれを食べています。子どもたちも「おいしい～！！」と言って食べてくれます。これがあたりまえの生活です。私達はここでの生活を選びました。将来、子どもたちにとってどんな影響があるのか、ないのかわかりません。気にしないわけではありませんが、「大丈夫！！」という言葉信じて生きていきます。</p> |
| | <p>福島市は以前の様な生活にすっかり戻っているように感じます。果物もおいしく、お米も野菜もおいしい福島です。学校生活（子ども）も規制の無いのびのびとした生活を送れているようです。しかし、福島県…で考えると、自宅に戻れない、ふるさとに戻れない…という方々も沢山いるので9年経ってもまだ終わりではないと感じます。</p> <p>二本松は、仮設住宅もなくなってきた、ほとんど以前のようになってきました。浜通りの方も、表面上しかわかりませんが、皆さんと、仲良く、生活されているようです。学校のほうでも、特に、外遊びなど制限もなく、本当に、以前のようなようです。このままおちついて生活していきたいと思えます。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>賠償金不満 40件</p> <p>賠償金の金額や対象への不満</p> | <p>避難者は補償金もらって、普通の人が一生涯働いても稼げないようなお金をもらって、パチンコざんまいだったりやりたい放題なのに、同じ中通りでもらえない人は福島ってだけでいやがられたりみじめな思いをしている。</p> |
| | <p>補償については、今でも不公平感があります。賠償金をもらっているからと、いまだに働かず、裕福な暮らしをして、補償が打ち切れそうになると何かにつけてまだ補償してもらおうという動きがあることをニュースや新聞で見ると、一生もらい続ける気なのかと思ってしまいます。腹立たしさを感じてしまいます。避難している方もそれなりに大変なのでしょうが、もう新しい地域での生活にも慣れてきたのではないのでしょうか。もう補償も打ち切ってもいいのではないかと思います。</p> |
| | <p>未だ避難生活をしている人を見ると、そろそろ新しい土地に落ち着いたらしいのにとったり、避難してきて立派な家を新築し大きい車に乗っていたりする人を見ると避難（被災者）してきた人たちだからお金には困っていないよね、というふうに見てしまいます。私は、勝手に多額の補償を受けていると思っていて、こんなふうになってしまうので、実際の賠償内容を公表してもらえれば、避難（被災者）を見る目が変わるかもしれませぬ。</p> <p>補償をめぐっては、不公平感9年たった今でも消えない。たぶん、一生消えませんが、東日本大震災を経験した人すべては、心に一生消えない傷を抱えています。地域は関係ありません。平等であるべきだと思います。</p> |

| | |
|--|--|
| | いつまでも悩んで、放射能をこわがって生活していても仕方がないので、ここにいるが、実験されているという気持ちもある。国や東京電力から、 |
|--|--|

| | |
|---|---|
| <p>国・県市町村・東電の対応 39件</p> <p>原発事故時とその後の対応への意見</p> | <p>どのような補償がされているのかも、生活の中ではまったく感じることはできない。何もなかったことになっている感じがする。このアンケートが来て、回答している時だけ思い出、どこにぶついたらいいのかわからないイラ立ちも感じる。</p> |
| | <p>現在の廃炉作業は現実的ではない。埋めて終わりでもいいので、その分の予算を他にまわしてもらいたい。</p> |
| | <p>式典も、10年でとりやめというのを見て、国・政府はもう対応しないんだらうなと思いました。新たな災害が起き、そちらに手を回さなくてはならないのはわかります。けれども、やはり、国の上の人は、将来の日本のことを考えていないと感じます。自分が生きている間だけ、日本が機能すればいいと思っているように感じます。今の子どもが大人になったら？地球環境は？汚染（空気・土）は？今の子どもに誇れるものを残してほしいと思っています。</p> |
| | <p>もう9年、もうすぐ10年になるんですね。子どもの成長と共に福島9年生活に慣れてしまっています。住み慣れた福島は居心地よいです。家族も、仕事も友達も近くにいて楽しいです。9年前の震災の日のことは今でも忘れません。福島の映画、本当の話ですが、時々あの日の原発事故は夢だったように思う時もあります。その後も台風や水害被害など今までになかったことが本当に起こります。何があってもおかしくない世の中です。オリンピックの準備は大きなお金と準備が早くて驚きます。原発事故も早く対応してほしい。まだまだ福島には大きな問題、不安が沢山あります。目をそむけたくくなります。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>差別不安 36件</p> <p>県外からの福島出身者への差別に対する不安</p> | <p>今年息子小学6年になります。いろいろ病気にはなりましたがすくすく育っています。この地域は、田舎なので放射能がらみのいじめやいやがらせはありません。皆穏やかに成長しています。一步外の世界にでると話は変わってくると思います。その時に、自信を持って自分の育った所の名前を言えるような社会になってほしいと思います。震災はどこでも起こりうる問題でいつでも危機感を持ち続けていかなければならない。小国日本に生まれてきた運命なのかも…。日々の生活ではほとんど放射能のことは気にしなくなっています。新聞、ニュース、このアンケートにより、思い出すくらいです。ずっと被災者にみられるのはどうなのでしょう。</p> |
| | <p>オリンピックで福島を外すというようなニュースを見たり差別的な目やいじめが実際にある。転校した先でバイキンと言われた子の友人もいる。どんなに安心安全を表しても、外国から非難を受ける。くやしい思いも正直ある。福島に住んでいることで子どもが嫌な思いをせずにごしてほしいと思う。</p> |
| | <p>あんなに絶望と不安だった日々がうそのように毎日が普通で、原発事故のことを忘れつつあります。でも、たまにふっと子どもが大きくなって、結婚を考えた時に、福島出身というこれが障害になったらどうしよう？とか、出産のとき問題があったらどうしよう…などとよぎります。忘れてはならない今も続く問題だからこそ、この問題を改善してくれる人を選ばねばと思います。原発ゼロは理想の未来です。</p> |
| | <p>子どもが将来、大学などで県外に行ったとき他県の人から差別を受けないか心配。少しでも福島出身というだけで差別を受けることがあったら、私たちは何も悪くないのにかわいそう。そしてつらすぎる。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>事故を思い出す 20件</p> <p>忘れることができない当時の記憶</p> | <p>震災当時2才と生後5ヶ月だった子どもたちが、小学校の5年生と3年生になりました。たまにテレビなどで地震の時の映像がながれたりすると「昔あんなことが本当にあったの？私たちその時どうだった？」と聞いてきたりします。子どもたちは昔と言っていますが、私にはついこの前のような気がしてなりません。確かに9年の歳月は経つのもかもしれませんが、あの大きな揺れ、大泣きする子どもたちの声、寒くて暗い家中、水や食糧を求めて集まる人々、忌まわしい原発事故、日々流れる二</p> |
|---|---|

| | |
|--|---|
| | <p>ユースに胸を痛めた日々は今でもはっきり覚えています。忘れることなんてできないです。</p> |
| | <p>震災時節電と言って街灯などの灯りをあちこち消してあって、すごく暗く、さびしかったこと覚えています。が、今もそのまま、街が暗いままです。復興したいのなら、街を明るくしなくては、気持ちまで暗くなると思います。せめて街灯くらい、明るく道を照らしてくれないと、いけないと思います。前向きに生きていく為に少しですが、市が、県が、国が、皆の気持ちに寄りそってくれると思えるようになりたいです。</p> |
| | <p>10月の台風で、市内が浸水し自然災害を受けました。つい昨日まで普通に生活していた町が、浸水し、風景が変わってしまいました。忘れかけていた震災の時のことを思い出し、辛い気持ちになりました。もう何も変わらない生活を送っていて、震災のことは心の中で受け入れていたと思いましたが、何か災害等、思い出してしまう出来事がふと起こると、涙が出てきます。そのくらい、心に残ってしまっているのだと思います。被災した全ての方々、同じ思いでいるのかもかもしれません。</p> |
| | <p>震災のあとも台風や水害があり、震災が特別ということがなくなっている感じがします。ただ、災害のおこるたびに、震災を思い出しますし、そのことがあったから、最近の災害にも対応して生活できていると思います。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>避難と帰還を巡る思い 20件</p> <p>原発事故をきっかけに避難されている方、戻った方の思い</p> | <p>数年ぶりに県外から戻ってきました。避難先の生活に慣れ、食材もすべて気にしていない、外遊びも大丈夫という生活からまた、震災後のイメージのまま郡山に住みはじめました。避難先の生活のまますごしているところもありますが、ふと、福島産のラベルをみると不安があります。これはどうしたらいいものなのか、数年ぶりに戻ってきても不安なものがありますね。</p> |
| | <p>東日本大震災から9年。子どもがいなければ、ずっと福島に住み続けていたと思います。仕事をやめ、買ったばかりのマンションを後にし、県外に引っ越して、生活が安定するまで2~3年かかったけど心の安定は間違いなく得られ、家族で今、元気に生活できていることに日々感謝しています。3.11。当事者でない人たちにとっては1年のうちの一日。すこしずつ忘れていってしまうこと。9年、いろいろなことがありました。当事者の私たちは、たくさん悩み、努力したことを人生の糧としてこれからも生きていく。大変だったけど無駄ではなかったと信じたい。</p> |
| | <p>私は一時的に他県に避難しましたが、経済的負担や、仕事などもあり、福島へ戻りました。何もなければよいですが、何かあった時に、自分の判断で子供の将来を左右させてしまったのか…と考える時があります。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>現在の健康 19件</p> <p>子どもの現在の健康状態 母親の精神面の不調</p> | <p>体の不調がもしかしたら3.11の影響かもと思ってしまい不安がつることが多い。子どもの咳や、のどの不調が年中のため、大丈夫かどうか心配。自分の不調も多く、たまに鼻血が出る時も一瞬よぎる。</p> |
| | <p>9年も前のことだったんだとしみじみ思いますが、あの恐怖は忘れられません。子どもの体のことはつねに心配しています。特に下の子は何箇所も骨に異常が出ていて、もともとの病気だったかと思いますが、原発に原因があるのではないかと、思ってしまったたりすることがあります。とても不安です。</p> |
| | <p>震災後もうしばらくは災害にあわないだろうと思っていたが、10月に台風19号で被災した。10年の間にこんなに災害に合うとは思っていなかった。今は、震災よりも、これからの生活再建に不安を感じている。子どものPTSDも少しずつ良くなっているが、未だに大きな音に敏感だったり、不安に感じたりすることは多い。たまに携帯のアラームが鳴ると過呼吸になったり、とまだまだ子どもの心の傷は深いんだと感じる。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>風評不安 19件</p> <p>福島の人・物 に対する風評 への不安</p> | <p>福島の風評や原発の廃炉作業の状況などを新聞記事で目にすることが多いが、それは福島に住んでいるからであって、県外の人々は、震災と原発事故に関しては、負のイメージしかないでしょう。オリパラが開催されることですし、他県や海外の人々に福島の現状をもっとよく知ってほしいです。子どもたちの将来に、福島が原因となる懸念や危惧が生じないよう願っています。</p> <p>最近ニュースで東京オリンピックの聖火リレーの話題があり、海外の方が、福島を放射能で汚染された県、福島の食材は使用しないほうがいいとか、ニュースで見ても、私自身もですが、住んでいる子どもたちも悲しんでいます。そういう偏見が少しでもなくなってほしいです。子どもたちが大きくなったら、県外の子とふれ合う機会もあると思うのですが、差別が心配です。</p> |
|---|--|

| | |
|---|---|
| <p>保養 14件</p> <p>保養に満足し ている声と、 保養が減るこ とへの不安</p> | <p>もう9年か…というのが正直なところ。あっという間でした。年々保養などに関心がなくなりつつあります。お金が大変ということと、子どもが大きくなったことは大きな要因です。あと1年はがんばります。区切りなので。このまま子どもが無事成長してくれたらもうそれでいいかなとも思います。感情を維持するということとはとても疲れます。</p> <p>震災の時の大変さ、不便さ、子どもを守らなくては…という思いを思い出すと、大抵の困難なことは乗り越えられるような気がします。今でも、春、夏、冬休みには保養に出かけ、心身ともにリフレッシュするように心がけています。4番目の子どもの育休中ということもあり、子どもたちを連れ出すことができ、新しい友人、初めての土地、食べ物、行事など様々な体験ができることにいつも感謝しています。ただ、各団体さんがいつまで企画して下さるかかわからないので、行けるうちに参加したいと思っています。子どもたちには、心身ともにたくましく強い幸せな大人になってもらいたいです。</p> <p>当時2歳だった息子は、現在も長期休みには保養に出しています。今でも保養事業を続けていただいていることに、いつも感謝しているところです。来年は、6年生になります。中学生になると、保養どころではなくなり、学校生活が忙しくなっていくことでしょう。このまま健康に子どもたちが生活していけることが希望です。</p> |
|---|---|

| | |
|--|--|
| <p>甲状腺検査 12件</p> <p>検査の結果や 体制に対する 不安</p> | <p>いろいろな情報がありすぎて、よく分からない状態です。が、自分は家のまわりや、道など、ふだん生活する範囲の放射線量は低いと思っているので、気にしていないと思います。子どもの甲状腺検査を学校で何回かやりましたが、意味があるものなのかも分かりません。他県との比較もしていないようです。ガンと診断されても因果関係は無しとされるようです。正直に気持ちとしては、心配した方がよいのか、しないほうが良いのか、分かりません。</p> <p>原発事故の避難区域の地点も、少しずつ帰れるようになっているけど、本当に安全なのかな？と思う。費用が大変だから、帰すようにしているとしか思えないです。持ち家の自宅もあるので、将来のことを不安に思う気持ちはあっても、他へ行くこともできず、現状のままです。子どもの将来の体調面は、かなり不安を持っていますが、先のことはいないので…。ホールボディカウンターや甲状腺検査もいつまで続けてくれるかわからないし、結果も信用できるものなのかどうか…。</p> <p>今でも、放射能のバッチをランドセルに入れておいたり（前から下げるものですが…）、ボディカウンター、甲状腺検査と受けてます。気になるのは甲状腺検査です。子どもたちがA2と判断されました。A2が多いと資料にはありましたが、心配で、はじめてA2と判断されたときは、専門の人にTelして相談もしました。検査も受けない人も多くなり、友だちにも結果などきけません。</p> |
|--|--|

| | |
|-------------------|---|
| 地震への不安 9件 | もう9年になるんですね。最近またいろんなところで地震が増えてきたので不安です。また、大きな地震がきたら、もう福島には住めなくならないだろうか不安です。 |
| また大きな地震が起きたらという不安 | 放射能についての心配・不安感は少なくなってきたのですが、地震に関しては、少しの揺れ、音でも未だに過敏になっています。いつ大きい地震がくるのか不安は大きいです。 |

| | |
|------------------------------|---|
| 情報不安 8件 情報の内容、格差に対する不安 | <p>まだ放射線は出続けているのに、大丈夫と思わせるニュースが全く信用できない。早くどうにかしてほしい。</p> <p>この9年間を振り返って思うことは、自ら学ぶことの大切さと情報リテラシーの重要性です。それが、私が原発事故から得た教訓です。原発事故直後は、放射能のことなど、分からないから不安になるということがたくさんありました。学んで知識を得ることで、少しずつ不安は減っていきました。しかし、どの情報が正しいのか、というのを見極めるのが、なかなか難しかったです。もし、不安よりの情報ばかり集めてしまっていたら、私も自主避難していたかもしれません。（結果的に自主避難するほどの状況ではなかったと思っています。）どのようにして情報の取捨選択や評価を行っていくかといった情報リテラシーは、ネットから情報を得る機会がさらに増えるであろう子どもたちの世代にもしっかりと身に付けてほしいと思います。</p> |
|------------------------------|---|

| | |
|-----------------------|--|
| 家族・友人・知人との不和や葛藤 6件 | <p>人の和が崩れてしまったことが残念でなりません。本来であれば災害で被害を受けた方を労わる気持ちがあるはずなのに、原発事故では賠償金をもらっている人の話は焼け太りで労わるどころか悪口をよく聞きます。賠償金をもらえる地域の線引きで今まで仲良くやってきたお隣さん同士が急に仲が悪くなったというのも聞きました。自然災害は仕方ないこと、被害にあっても復興のため一緒に頑張ろうとなりますが原発事故は地域で補償に差があり人の心がバラバラで一緒に頑張っていこうとはなっていないように思えます。本当に原発事故さえなければと未だに思います。</p> <p>避難からも賠償からも微妙な地域なので、夫の両親、夫とは原発事故に対する子どもへの影響のとらえ方、考え方に9年前から今も温度差を感じながら日々生活しているように思います。</p> |
|-----------------------|--|

| | |
|----------------|--|
| 原発への否定意見 6件 | <p>日本国内にある原発はなくしてほしい。福島の原発事故を教訓にしてもらいたい。</p> <p>福島には今住んでいないので、原発事故のことはあまり取り上げられず、よそのことという認識が強いと思います。あんなに大変な思いをしたのに（たくさんの福島県民が）原発がなくなることが信じられません。自分の住んでいるところが影響を受けなければいいジャン的な考えが根底にあるのでは…。がっかりです。何年たっても、東日本大震災のことは忘れられません。大都市が同じような被害を受けないと、原発ゼロというふうにはならないのではという気がします。</p> |
|----------------|--|

| | |
|-----------------------|--|
| モニタリングポストに対する意見 4件 | <p>二度と同じような事故は起きてほしくないということと、放射性物質は目に見えないので今後もモニタリングは継続してほしいです。</p> <p>ただ、モニタリングポストが撤去されなくなったことは良かったと思います。なくなってしまったら、より風化してしまうのではと思っているので。</p> |
|-----------------------|--|

9 おわりに

今回の調査結果は、以下のようにまとめられます。

- ・ まず、昨年より回答者が100名ほど減少し、702名の子どものお母さん（保護者）からご回答をいただきました。
- ・ お子さんが成長するにつれ、親御さんがお子さんと一緒に遊ぶ機会や一緒に買い物に行く機会は年々減少し、親子で一緒に行動する時間が減少しているようです。
- ・ お子さんの外遊び時間も小学3年生以降減り続け、テレビ・インターネットをみて過ごす時間は、長くなっているようです。習い事等に費やす時間が増加していることと、ライフスタイルの変化がうかがえます。
- ・ お子さんの適応と精神的健康については、女子は全国調査と比較して「正常」の割合が高く、男子は全国調査と比較して低いことがわかりました。
- ・ お子さんの健康状態は良好ですが、多い症状は「皮膚のかゆみ」「せきが出る」「疲れやすい」「腹痛・胃痛」「頭痛」の順でした。これらの結果は全国に比べると有訴率が高いようです。
- ・ お母さんの心の状態はおおむね安定しています。ただ、災害に関連した心の状態を評価するSQDでは9年近く経過した時点でも6割以上の方が「イライラ・怒りっぽい」「疲れやすく身体がだるい」を訴えています。
- ・ お母さんの健康状態も良好ですが、「肩こり」「頭痛」「腰痛」が一貫して多いようです。
- ・ 「補償の不公平感」の高止まり傾向が続き、「放射能情報に関する不安」「いじめや差別への不安」「健康影響への不安」などが緩やかに減少しています。地元産食材や洗濯物外干しへの抵抗感、周囲の人との認識のずれも一定の割合で推移しています。
- ・ 「保養に出かけていない」の割合が増え続け、「たまに出かける」と「よく出かける」は年々減少しています。
- ・ 半数以上の方が、福島が「学校や教育施設の質が良いまち」になることを望んでいます。
- ・ 約3割の方が「原発事故・放射能を話題にしにくい」といい、9割近くの方が「原発事故の風化」を感じています。
- ・ 「地域への愛着」や「現在の地域での居住意思」については、9割近くの方が肯定的です。

時間の経過とともに原発事故の風化が進み、生活も原発事故前の状態に戻りつつあります。お子さんとお母さんの健康状態もおおむね良好で、お母さんの心の状態も安定してきています。しかし、母子ともに現在は健康であるが、将来の子どもたちの生活や健康に影響があるのではないかという不安は解消されていません。また、補償不公平感や情報不安などの課題も残されています。その上に、台風などの災害、コロナウィルス禍などが押し寄せ、原発事故後を思い出させるとともに、新たな対応を迫られています。福島子ども健康プロジェクトは、今後も福島県中通り9市町村の親子の生活と健康状態を定期的に記録し、広く社会に伝えていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

福島
子ども健康
プロジェクト